

2019 年度

情報公開

- 大学等における修学の支援に関する法律第 7 条第 1 項の確認に係る申請書
- 実務経験のある教員等による授業科目
- 客観的な指標の算出方法
- 卒業の認定に関する方針
- シラバス
- 学校関係者評価

様式第2号の1-②【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の1-①を用いること。

学校名	四条畷看護専門学校
設置者名	学校法人栗岡学園

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

課程名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数又は授業時数	省令で定める基準単位数又は授業時数	配置困難
医療専門課程	看護学科	夜・通信	1920 時間	160 時間	
		夜・通信			
		夜・通信			
(備考)					

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

・学校のHP www.shijonawate-kango.ac.jp/johokokai.html にて公開
--

3. 要件を満たすことが困難である学科

学科名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	四条畷看護専門学校
設置者名	学校法人栗岡学園

1. 理事（役員）名簿の公表方法

・学校法人のHPにて公開 www.kuriokagakuen.ac.jp/johokokai.html

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
(備考) 2020年4月1日までに、複数の学外者である理事の選任を確実に実施する。			

様式第 2 号の 3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	四条畷看護専門学校
設置者名	学校法人栗岡学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画(シラバス)を作成し、公表していること。 (授業計画書の作成・公表に係る取組の概要) ・教員による科目 旧年度講義概要に直接入力によって新年度講義概要の加筆・訂正等に記入の確認を行う ・外来講師科目 郵送によって新年度講義概要の確認を行う ・学内最終確認 ・新年度開始時期に教育計画のみオリエンテーション時に学生に配布している。 また保護者に対しては、入学式に参列した保護者には説明のうえで参列していない保護者には郵送している。	
授業計画書の公表方法	「シラバス」は 学校事務室に設置し、閲覧可能である。
2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。 (授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要) 成績評価は、筆記試験、口述、論文、実技試験等講師が適当と認める方法によって行う。学科試験の出題および採点は担当講師がこれを行う。 受験資格は、講義演習に於いては授業科目の時間数の3分の2以上の出席者とする。臨地実習に於いては、規定の時間数の5分の4（72時間）以上出席し、且つ実習記録を提出していなければならない。 単位認定は、科目毎とし講義及び臨地実習が終了後に実施する。その得点の6割以上の得点をもって履修とする。その得点が6割に満たない場合、再試験を受け6割以上の得点をもって履修とする。単位認定に係る提出物については提出期限を遵守しなければならない。 大学、高等専門学校、養成施設等に在学していた者については、既修得した単位が当該科目の認定要件を満たしていれば、単位の認定を受けることができる。 ※単位の計算方法（学則第4章24条より） ・1単位 15～30時間と換算する(講義・演習) ・1単位 45時間と換算する(臨地実習)	

3. 成績評価において、G P A等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。 (客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要) 各学年の授業に対する習熟度を測るため、履修科目の成績評価を点数化し、全科目の合計点の平均を算出しているが、今後はG P A (Grade Point Average)制度の採用を検討している。 学生には、自らの得点と順位を記したものを配付している。	
客観的な指標の 算出方法の公表方法	www.shijonawate-kango.ac.jp/johokokai.html
4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。 (卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要) 保健師助産師看護婦法ならびに看護師学校養成指定規則を遵守し、以下の教育課程における単位を取得した者に対して卒業を認定する。 【学則 第5章 第30条～第34条】 医療専門課程における卒業の認定は次のとおりとする。 第30条 学校長は、所定の科目の単位認定を受けた者については、運営会議の議を経て卒業の認定を行う。 第31条 卒業の認定基準は次のとおりとする。 (1)各学科の単位が認定されていること。 (2)欠席日数が出席すべき日数の3分の1を超えないもの。 第32条 卒業の認定を受けた者には、文部科学大臣による告示により専門士(医療専門課程)の称号を付与する。 第33条 学校長は、卒業を認定した者に対し本校所定の卒業証書を授与する。 第34条 本校を卒業した者には看護師国家試験の受験資格が与えられる。 【細則】(卒業) 第14条 所定の授業科目・臨地実習について単位の認定をうけた者については、運営会議の議を経て卒業させる。 基礎分野 8 単位 専門基礎分野 14 単位 専門分野Ⅰ 9 単位 専門分野Ⅱ 26 単位 統合分野 11 単位 合 計 68 単位 ※単位の計算方法（学則第4章24条より） ・1単位 15～30 時間と換算する(講義・演習) ・1単位 45 時間と換算する(臨地実習)	
卒業の認定に関する 方針の公表方法	www.shijonawate-kango.ac.jp/johokokai.html

様式第2号の4-②【(4)財務・経営情報の公表（専門学校）】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の4-①を用いること。

学校名	四条畷看護専門学校
設置者名	学校法人栗岡学園

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	学校法人のHPで公開 www.kuriokagakuen.ac.jp/johokokai.html
収支計算書又は損益計算書	学校法人のHPで公開 www.kuriokagakuen.ac.jp/johokokai.html
財産目録	学校法人のHPで公開 www.kuriokagakuen.ac.jp/johokokai.html
事業報告書	学校法人のHPで公開 www.kuriokagakuen.ac.jp/johokokai.html
監事による監査報告（書）	学校法人のHPで公開 www.kuriokagakuen.ac.jp/johokokai.html

2. 教育活動に係る情報

①学科等の情報

分野		課程名	学科名	専門士		高度専門士	
医療		医療専門課程	看護学科	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2 年	昼	2190 時間	1440	30	720		
			時間				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
80 人		79 人	0 人	11 人	39 人	50 人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要） ・教員による科目 旧年度講義概要に直接入力によって新年度講義概要の加筆・訂正等に記入の確認を行う ・外来講師科目 郵送によって新年度講義概要の確認を行う ・学内最終確認 ・新年度開始時期に教育計画のみオリエンテーション時に学生に配布している。 また保護者に対しては、入学式に参列した保護者には説明のうえで参列していない保護者には郵送している。

成績評価の基準・方法												
(概要) 各学生の授業に対する習熟度を測るため、履修科目の成績評価を点数化し、全科目の合計点の平均を算出しているが、今後はG P A (Grade Point Average)制度の採用を検討している。												
卒業・進級の認定基準												
(概要) 保健師助産師看護婦法ならびに看護師学校養成指定規則を遵守し、以下の教育課程における単位を取得した者に対して卒業を認定する。 【学則 第 5 章 第 30 条～第 34 条】 医療専門課程における卒業の認定は次のとおりとする。 第 30 条 学校長は、所定の科目の単位認定を受けた者については、運営会議の議を経て卒業の認定を行う。 第 31 条 卒業の認定基準は次のとおりとする。 (1)各学科の単位が認定されていること。 (2)欠席日数が出席すべき日数の 3 分の 1 を超えないもの。 第 32 条 卒業の認定を受けた者には、文部科学大臣による告示により専門士(医療専門課程)の称号を付与する。 第 33 条 学校長は、卒業を認定した者に対し本校所定の卒業証書を授与する。 第 34 条 本校を卒業した者には看護師国家試験の受験資格が与えられる。 【細則】(卒業) 第 14 条 所定の授業科目・臨地実習について単位の認定をうけた者については、運営会議の議を経て卒業させる。 <table><tr><td>基礎分野</td><td>8 単位</td></tr><tr><td>専門基礎分野</td><td>14 単位</td></tr><tr><td>専門分野Ⅰ</td><td>9 単位</td></tr><tr><td>専門分野Ⅱ</td><td>26 単位</td></tr><tr><td>統合分野</td><td>11 単位</td></tr><tr><td>合 計</td><td>68 単位</td></tr></table> ※単位の計算方法（学則第 4 章 24 条より） ・ 1 単位 15～30 時間と換算する(講義・演習) ・ 1 単位 45 時間と換算する(臨地実習)	基礎分野	8 単位	専門基礎分野	14 単位	専門分野Ⅰ	9 単位	専門分野Ⅱ	26 単位	統合分野	11 単位	合 計	68 単位
基礎分野	8 単位											
専門基礎分野	14 単位											
専門分野Ⅰ	9 単位											
専門分野Ⅱ	26 単位											
統合分野	11 単位											
合 計	68 単位											
学修支援等												
(概要) ・ 入学前説明会 ・ 基礎学力試験の学習不振者に対しステップアップ授業 ・ 学年担任制度およびアドバイザー制度 ・ 学生・教員で国家試験対策委員を組織し、学年を越えた相互学習を行っている。												

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
36 人 (100%)	0 人 (0 %)	32 人 (88.9%)	4 人 (11.1%)
(主な就職、業界等) 医療施設（病院等）			
(就職指導内容) 教員による就職活動指導、履歴書の添削			
(主な学修成果（資格・検定等）) 看護師国家試験受験資格			
(備考)（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
82 人	7 人	8.5%
(中途退学の主な理由) 成績不良の為		
(中退防止・中退者支援のための取組) 教員による本人との個別面談・個別指導、臨床心理士によるカウンセリング、保護者への 電話連絡・個人(三者)面談等		

②学校単位の情報

a)「生徒納付金」等

学科名	入学金	授業料 (年間)	その他	備考（任意記載事項）
看護学科	300,000 円	420,000 円	325,000 円	
	円	円	円	
	円	円	円	
	円	円	円	
修学支援（任意記載事項）				
・家族割引制度(二親等内の親族が関連校を卒業若しくは在学している場合、入学金の一部を免除する制度) ・姉妹校割引制度(阪奈中央看護専門学校准看護科を卒業し本校へ入学された場合、入学金の一部を免除する制度) ・専門実践教育訓練給付金制度・専門実践教育訓練支援制度 ・各種奨学金(日本学生支援機構等) ・診療費補助制度(関連施設・関連病院)				

b) 学校評価

自己評価結果の公表方法		
学校 HP にて公開 www.shijonawate-kango.ac.jp/johokokai.html#		
学校関係者評価の基本方針（実施方法・体制）		
自己評価結果の客観性・透明性を高めるため、学外関係者による「学校関係者評価委員会」を設置し、学校関係者評価を実施する。 ○主な評価項目：教育、施設、学生サービスなど ○評価委員の定数：5 名以上 ○評価委員の選出区分：卒業生、企業関係者、高校関係者、地域住民、教育関連有職者など ○評価結果の活用方法：学校運営等の改善に活用する。評価結果ならびに改善策と実施の時期等についてはホームページで随時公表する予定である。		
学校関係者評価の委員		
※2020 年度から学校関係者評価を確実に実施し、2020 年度よりその結果を公表するために委員の選任を行なっている。		
所属	任期	種別
学校関係者評価結果の公表方法		
2020 年から学校関係者評価を確実に実施し、2020 年度よりその結果を公表する。		
第三者による学校評価（任意記載事項）		

c) 当該学校に係る情報

（ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法） www.shijonawate-kango.ac.jp/johokokai.html 「シラバス」は、学校事務室に設置し、閲覧可能である
--

実務経験のある教員等による授業科目（四条看護専門学校）

：実務教員科目・単位時間

教育内容		指定 規則	授業科目	学 則		授 業 内 容	担当 時間	評価	試験	時期	
		単 位		単位	時間			割合%	時間	1年次	2年次
基礎 分野	科学的 思考の 基盤 人間と人間 生活の理 解	7	情報科学	1	30	看護と情報処理他	30	100	45分	4月	
			論理学	1	30	論理的思考とは・・・	30	100	45分	4月	
			哲学	1	15	哲学とは、人間とは他	15	100	45分	10月	
			人間関係論	1	30	人間関係とは、討議法・カウンセリング他	30	100	45分	4月	
			教育学	1	30	教育原理、看護と教育他	30	100	45分	8月	
			社会学	1	30	社会概念、社会病理・ジェンダー他	30	100	45分	4月	
			英語	1	30	医学、看護用語・臨床場面の英会話他	30	100	45分	4月	
			スポーツと健康科学	1	30	運動生理学、スポーツの意義他	30	100	45分	4月	
小 計		7	小 計	8	225		225				
専門 基礎 分野	人体の 構造と 機能 疾病の 成り立 ちと回 復の促 進	10	解剖生理学Ⅰ	1	30	総論・神経系・筋骨格・生殖器系ほか	30	100	45分	4月	
			解剖生理学Ⅱ	1	30	呼吸、循環、体温のしくみ・消化と吸収・排泄、腎機能ほか	30	100	45分	6月	
			生化学(含栄養学)	1	30	生化学の基礎・物質代謝他	30	100	45分	5月	
						栄養状態の判定・食事療法の実践他					
			疾病治療論Ⅰ	1	30	病理学総論・代謝、循環異常、炎症と免疫他	18(16)	50	20分	4月	
						視力障害・眼科疾患	6	25	15分	7月	
						難聴・嚥下障害・耳鼻咽喉科疾患	6	25	15分	10月	
			疾病治療論Ⅱ	1	30	呼吸器系疾患	24	50	25分	6月	
						循環器系疾患	12	50	25分	10月	
			疾病治療論Ⅲ	1	30	血液・造血器疾患	10	30	15分	10月	
						内分泌・代謝系疾患	14	50	25分	8月	
						皮膚・アレルギー・膠原病	6	20	15分	9月	
			疾病治療論Ⅳ	1	30	消化器系疾患	16	50	25分	10月	
						脳神経系疾患	14	50	25分	10月	
			疾病治療論Ⅴ	1	30	運動器系疾患	12	40	20分	10月	
						腎系疾患	6	15	15分	1月	
						泌尿器系疾患	4	15	15分	10月	
						女性生殖器系疾患	10	30	15分	9月	
			薬理学	1	30	総論・薬物の作用機序・薬物の管理他	30	100	45分	9月	
			微生物学	1	30	総論・細菌、真菌、原虫、ウイルスの性質と感染症・感染予防対策他	30	100	45分	7月	
	健康支 援と社 会保障 制度	4	総合医療論	1	15	医療の歩みと医療観の変遷・医の倫理・生活と医療他	15	100	45分	5月	
			公衆衛生	1	15	公衆衛生の概念・人口動態・衛生統計他	15	100	45分	4月	
			看護関連法規	1	15	法規の概念・医事法・保健師助産師看護師法・薬事法	15	100	45分		4月
			社会福祉	1	30	社会福祉の概念、変遷・社会福祉制度と社会保障制度・社会福祉と看護連携他	30	100	45分	4月	
小 計		14	小 計	14	375		365				

教育内容		指定規則	授業科目	学 則		授 業 内 容	担当時間	評価	試験時間	時期	
		単 位		単位	時間			割合%		1年次	2年次
専門分野Ⅰ	基礎看護学	6	基礎看護学概論	1	30	看護の概念・看護の対象・看護の変遷、倫理他	30	100	45分	4月	
			基礎看護学援助論Ⅰ	1	30	看護技術の本質・安全・安楽	15	50	25分	4月	
						コミュニケーション	15	50	25分		
			基礎看護学援助論Ⅱ	1	15	観察とフィジカルアセスメント	15	100	45分	後期	
			基礎看護学援助論Ⅲ	1	30	問題解決思考とは・看護過程とは 紙上事例展開	30	100	45分	前期	
			基礎看護学援助論Ⅳ	1	30	環境調整・衣生活・清潔の援助	18	100	45分	前期	
						食事の援助・排泄の援助	8			6月	
						活動・休息(睡眠)の援助	4			7月	
			基礎看護学援助論Ⅴ	1	30	診療の補助(診察・検査・与薬・治療・処置)	15	50	25分	10月	
						学習支援	15	50	25分	1月	
			基礎看護学援助論Ⅵ(臨床看護総論)	1	30	健康ニーズと家族への看護、経過別看護	15	50	45分	後期	
						主要症状、治療・処置別看護	15	50			
小 計	6	小 計	7	195		195					
専門分野Ⅱ	成人看護学	3	成人看護学概論	1	30	成人の特徴、課題・保健の動向他	30	100	45分	4月	
			成人看護学援助論Ⅰ	1	30	循環機能障害をもつ成人の看護	10	40	20分	後期	
						内分泌機能障害をもつ成人の看護	10	30	15分		
						消化・吸収機能障害をもつ成人の看護	10	30	15分		
			成人看護学援助論Ⅱ	1	30	呼吸機能障害をもつ成人の看護	10	40	20分	後期	
						血液・造血管機能障害をもつ成人の看護	10	30	15分		
						脳・神経機能障害をもつ成人の看護	10	30	15分		
			成人看護学援助論Ⅲ	1	30	腎・泌尿器機能障害をもつ成人の看護	10	40	20分	後期	
						運動機能障害をもつ成人の看護	10	30	15分		
						事例展開	10	30		1年次3月～2年次4月	
		小計	3		4	120	120				
	老年看護学	3	老年看護学概論	1	30	老年者とは・加齢に伴う変化・人権、倫理的問題他	30	100	45分	5月	
			老年看護学援助論Ⅰ	1	30	自立生活の拡大、治療に関するケア アセスメントとケアの技法	20	70	30分	9月	
						リハビリテーション	10	30	15分		
			老年看護学援助論Ⅱ	1	30	レクリエーション	10	40	20分	後期	
						事例展開	10	30	15分	後期	
		小計	3		3	90	90			1年次3月～2年次4月	
	小児看護学	3	小児看護学概論	1	30	小児看護の特徴と理念・成長、発達課題と生活	30	100	45分	4月	
			小児看護学援助論Ⅰ	1	30	看護と看護技術	30	100	45分	後期	
			小児看護学援助論Ⅱ	1	30	疾病、症状の理解	20	70	30分	後期	
						事例展開	10	30			
		小計	0		3	90	90			1年次3月～2年次4月	
母性看護学	3	母性看護学概論	1	30	母性看護の沿革・看護の対象・リプロダクティブヘルスライツ	30	100	45分	4月		
		母性看護学援助論Ⅰ	1	30	妊婦、産婦、褥婦、新生児の理解	30	100	45分	6月		
		母性看護学援助論Ⅱ	1	30	妊娠、出産、産褥、新生児の異常と看護	20	70	30分	9月		
					事例展開	10	30				
	小計	3		3	90	90			1年次3月～2年次4月		
精神看護学	3	精神看護学概論	1	30	精神の健康とは・危機とストレス・人権擁護と法制度他	30	100	45分	前期		
		精神看護学援助論Ⅰ	1	30	精神症状、病態像理解	20	70	30分	10月		
					事例展開	10	30				
		精神看護学援助論Ⅱ	1	30	ケアの人間関係・入院治療と看護の展開	30	100	45分	9月		
	小計	3		3	90	90			1年次3月～2年次4月		

教育内容		指定規則	授業科目	学 則		授 業 内 容	担当時間	評価割合%	試験時間	時期	
		単 位		単位	時間					1年次	2年次
統合分野	在宅看護論	3	在宅看護概論	1	30	在宅看護の基本理念・継続看護・訪問看護の機能と役割	30	100	45分	5月	
			在宅看護援助論Ⅰ	1	30	在宅看護の実際	30	100	45分	後期	
			在宅看護援助論Ⅱ	1	30	在宅看護技術事例展開	20 10	70 30	30分	後期	4月
	小計	3		3	90		90				
	看護の統合と実践	4	看護の統合と実践概論	1	30	看護管理	15	50	45分	後期	
						看護研究(ケーススタディ)	15	50		1年次後期～2年次12月	
			看護の統合と実践Ⅰ	1	30	災害看護総論	5	50	45分		後期
						BLS演習・病院の災害訓練の実際	6				
						災害看護の実際、トリアージ	4				
			看護の統合と実践Ⅱ	1	15	国際看護	15	50	45分	後期	
			看護の統合と実践Ⅲ	1	30	医療安全	15	100	45分	後期	
	小計	4	小計	4	105	複数患者の看護・総合看護実践演習	30	100			後期
							105				
専門分野	臨地実習	2	基礎看護学実習	2	90	看護過程の展開	90	100		2月	
		2	成人看護学実習	2	90		90	100			5月～12月
		2	老年看護学実習	2	90		90	100			
		2	小児看護学実習	2	90		90	100			
		2	母性看護学実習	2	90		90	100			
		2	精神看護学実習	2	90		90	100			
		2	在宅看護論実習	2	90		90	100			
		2	看護の統合と実践	2	90		90	100			10月～12月
小計		16 (720)	小計	16	720		720				
総計		65 (2180)	総計	68	2190		2190				

＜客観的な指標の算出方法＞

四条畷看護専門学校

客観的な指標の算出方法					
履修科目の成績評価を点数化し、全科目の合計点の平均を算出する。 (100点満点で点数化)					
学科名	看護学科	学年		学生数	40
成績の分布					
指標の数値	～59 点	60～69 点	70～79 点	80～89 点	90～100 点
人数					
下位1／4に該当する人数 人 下位1／4に該当する指標の数値 点以下					

○今後はG P A (Grade Point Average)制度の採用を検討している。

＜学生便覧より抜粋＞

学 則

第 5 章 卒 業 等

(卒業の認定)

第30条 学校長は、所定の科目の単位認定を受けた者について、運営会議の議を経て卒業の認定を行う。

(卒業の認定基準)

第31条 卒業の認定基準は次のとおりとする。

(1) 各学科の単位が認定されていること。

(2) 欠席日数が出席すべき日数の3分の1を超えない者。

※出席すべき日数とは、行事等を含む授業のある日数である。

(専門士称号の付与)

第32条 卒業の認定を受けた者には、文部科学大臣による告示により専門士（医療専門課程）の称号を付与する。

(卒業証書)

第33条 学校長は、卒業を認定した者に対し本校所定の卒業証書を授与する。

(資格の取得)

第34条 本校を卒業した者には看護師国家試験の受験資格が与えられる。

細 則

(卒業)

第 14 条 所定の授業科目・臨地実習について単位の認定をうけた者については、運営会議の議を経て卒業させる。

基礎分野	8 単位
専門基礎分野	14 単位
専門分野Ⅰ	9 単位
専門分野Ⅱ	26 単位
統合分野	11 単位
合 計	68 単位

表 1

医療課程(2年課程) 看護学科 全日制

授 業 科 目 と 時 間 配 分 (H30年度)

教育内容		指定規則	授業科目	学 則		
		単位		単位(時間)	1年次	2年次
基礎分野	科学的思考の基盤	7	哲学	1(15)	15	
			論理学	1(30)	30	
			情報科学	1(30)	30	
	人間と人間生活の理解		人間関係論	1(30)	30	
			教育学	1(30)	30	
			社会学	1(30)	30	
			英語	1(30)	30	
スポーツと健康科学	1(30)	30				
小 計		7	小 計	8(225)	225	0
専門基礎分野	人体の構造と機能	10	解剖生理学Ⅰ	1(30)	30	
			解剖生理学Ⅱ	1(30)	30	
			生化学(含栄養学)	1(30)	30	
	疾病の成り立ちと回復の促進		疾病治療論Ⅰ	1(30)	30	
			疾病治療論Ⅱ	1(30)	30	
			疾病治療論Ⅲ	1(30)	30	
			疾病治療論Ⅳ	1(30)	30	
			疾病治療論Ⅴ	1(30)	30	
			微生物学	1(30)	30	
			薬理学	1(30)	30	
	健康支援と社会保障制度		4	総合医療論	1(15)	15
公衆衛生		1(15)		15		
看護関連法規		1(15)			15	
社会福祉		1(30)		30		
小 計		14	小 計	14(375)	360	15
専門分野Ⅰ	基礎看護学	6	基礎看護学概論	1(30)	30	
			基礎看護学援助論Ⅰ	1(30)	30	
			基礎看護学援助論Ⅱ	1(15)	15	
			基礎看護学援助論Ⅲ	1(30)	30	
			基礎看護学援助論Ⅳ	1(30)	30	
			基礎看護学援助論Ⅴ	1(30)	30	
			基礎看護学援助論Ⅵ	1(30)	30	
専門分野Ⅱ	成人看護学	3	成人看護学概論	1(30)	30	
			成人看護学援助論Ⅰ	1(30)	30	
			成人看護学援助論Ⅱ	1(30)	30	
			成人看護学援助論Ⅲ	1(30)	30	

教育内容		指定規則	授業科目	学 則			
		単位		単位(時間)	1年次	2年次	
専 門 分 野 Ⅲ	老年看護学	3	老年看護学概論	1(30)	30		
			老年看護学援助論Ⅰ	1(30)	30		
			老年看護学援助論Ⅱ	1(30)	30		
	小児看護学	3	小児看護学概論	1(30)	30		
			小児看護学援助論Ⅰ	1(30)	30		
			小児看護学援助論Ⅱ	1(30)	30		
	母性看護学	3	母性看護学概論	1(30)	30		
			母性看護学援助論Ⅰ	1(30)	30		
			母性看護学援助論Ⅱ	1(30)	30		
	精神看護学	3	精神看護学概論	1(30)	30		
			精神看護学援助論Ⅰ	1(30)	30		
			精神看護学援助論Ⅱ	1(30)	30		
統 合 分 野	在宅看護論	3	在宅看護概論	1(30)	30		
			在宅看護援助論Ⅰ	1(30)	30		
			在宅看護援助論Ⅱ	1(30)	30		
	看護の統合と実践	4	看護の統合と実践概論	1(30)	15	15	
			看護の統合と実践論Ⅰ	1(30)		30	
看護の統合と実践論Ⅱ	1(15)		15				
看護の統合と実践論Ⅲ	1(30)			30			
小 計		28	小 計	30(870)	795	75	
専 門 分 野	臨地実習	2	基礎看護学実習	2(90)	90		
		2	成人看護学実習	2(90)			90
		2	老年看護学実習	2(90)			90
		2	小児看護学実習	2(90)			90
		2	母性看護学実習	2(90)			90
		2	精神看護学実習	2(90)			90
		2	在宅看護論実習	2(90)			90
		2	看護の統合と実践実習	2(90)			90
小 計		16	小 計	16(720)	90	630	
総 計		65(2180)	総 計	68(2190)	1470	720	

学校法人栗岡学園 四条畷看護専門学校 2019年度 S y l l a b u s

授業科目		科学的思考の基盤 哲学	1 年次	1 単位	担当者	野々村 梓
			後期	15 時間		
目的 目標		目標：1. 哲学の概念を学び、社会的存在としての人間の生き方、価値観、人間の生命や人権に対する基本的理念および倫理観を理解する				
授 業 計 画	回数	講 義 内 容				備 考
	1	1. 講義計画、シラバス、授業の方針等説明 2. 哲学とはなにか				講義 グループワーク 授業終了後、 感想・質問提出
	2	1. 倫理とはないか 2. 倫理を学ぶ意味 3. 看護倫理として必要な義務論、功利主義について				
	3	1. 生命倫理について 2. インフォームドコンセントについて				
	4	1. 倫理原則およびバルセロナ宣言 2. 生命の尊厳性について 3. 性的マイノリティー、LGBT について社会的側面から考える				
	5	1. 妊娠人工中絶、生殖医療の倫理的な側面について 2. ホスピスケア、緩和ケアについて				
	6	1. ホスピスケアの概念から鎮静の倫理的妥当性について 2. サラ・フライの倫理原則について				
	7	1. 看護師の責務と倫理原則、ケアについて 2. 事例を用いながら倫理原則についてディスカッション 3. 患者にとっての自律無害について考える				
	8	1. 終講試験 2. まとめ				
評価方法		論文作成記 100 点満点				
テキスト		系統看護学講座別巻 看護倫理：医学書院，2018.				
参考図書						
Message		哲学を学ぶことで、看護の対象である人間の存在価値、生命倫理について考え、看護実践の土台が築けるよう学んでいきましょう。				
教員の 実務経験		実務経験なし				

授業科目		科学的思考の基盤 論理学	1 年次	1 単位	担当者	大本達也
			前期	3 0 時間		
目的 目標		目標：思考形式と法則を学び、論理的思考・文章表現を学ぶ				
授 業 計 画	回数	講 義 内 容				備 考
	1	1. 論理学とは、論理的思考とは、実用的論理術について 2. グループ分け、チーム活動 3. 宿題「テーマ学習」レポート				講義・演習 宿題提示
	2.	1. チーム発表、討議。(次回資料提示) 2. 「テーマ学習」について討議 3. 宿題「テーマ学習」レポート再提出				資料・演習 宿題提示
	3.	1. チーム発表、討議。(次回資料提示) 2. 宿題「テーマ学習」逆バージョンレポート				資料・演習 宿題提示
	4.	1. チーム発表、討議。(次回資料提示) 2. 宿題「テーマ学習」レポート				資料・演習 宿題提示
	5.	1. 小テスト 2. チーム・ミーティングー心とは？ 3. 宿題「テーマ学習」レポート				資料・演習 宿題提示
	6.	1. チーム発表 ― 討論				資料・演習
	7.	1. 「テーマ」についてレポートを書く準備 2. レポートの書き方 3. 宿題「レポートの下書き」				資料 宿題提示
	8.	1. 「テーマ」レポート執筆				レポート作成
	9.	1. 「テーマ」をめぐって討論、発表 2. 「テーマ」レポート				演習 宿題提示
	10.	1. 「テーマ学習」① 2. 宿題「テーマ学習」				資料・演習 宿題提示
	11.	1. 「テーマ学習」② 2. 宿題「テーマ」レポート				資料・演習 宿題提示
	12.	1. 「テーマ学習」③ 2. グループ討議、発表準備、発表				資料・演習 DVD・宿題提示
	13.	1. 「テーマ学習」グループ発表				資料・演習
	14.	1. 「提示資料」を読みグループ討議、発表				資料・演習
15	1. 終講レポートについて				記載要項	
評価方法		レポート提出（テーマ提示あり） 100 点満点				
テキスト		必要時資料配布				
参考図書						
Message		GW で沢山の意見を聴く中で、それらを分析・統合させ論理的思考に基づいた文章表現ができるよう学習を深めましょう。				
教員の 実務経験		実務経験なし				

授業科		科学的思考の基盤 情報科学	1 年次	1 単位	担当者	浅居孝彦
			後期	3 0 時間		
目的 目標		目標：1.情報処理の基礎的知識を理解し、統計の意義、解析の仕方を学ぶ 2.公衆衛生、医療に対する客観的な見方に役立てる				
授 業 計 画	回数	講 義 内 容				備 考
	1	1. 基本的な文章作成(Word による文章作成) 2. 課題「イッキ飲みに関する意識調査」				講義とコンピュータを使用した演習
	2	1. 表の作成(Word) 2. 課題「アルコールに関する質問」				
	3	1. データの入力・編集、表の作成(Excel)				
	4	1. 数式・関数の利用 2. 課題「健康診断の結果」				
	5	1. データベースの利用 2. 課題「データベースの利用」プリント提出				
	6	1. 集計表の作成 2. ピボットテーブルの利用				
	7	1. データ分析を利用した度数分布表の作成 2. グラフ作成、集計データを利用した棒グラフの作成				
	8	1. これまでの作業の復習、確認 2. Excel 集計表、関数、ピボットテーブル				
	9	1. プレゼンテーション、レポートを含めた成績評価の方法 2. 資料作成上の注意点				
	10	1. アンケートのデータを利用したプレゼンテーションの準備				
	11	1. アンケートのデータ分析 2. レポート発表の資料作成				
	12	1. 報告準備				
	13	1. 報告準備の仕上げ				
	14	1. 報告会				
15	1. 終講試験					
評価方法		コンピュータ使用によるテスト（課題提示）				100 点満点
テキスト		講師作成資料				
参考図書						
Message		情報科学は、コンピュータだけを研究する学問ではありません。情報の形態、情報の量の概念を学び、その利用、社会への影響をなど学び、情報処理の方法へと進みます。情報処理では、統計学の基本的知識が必要です。余暇を利用してパソコンを大いに活用するよう心がけましょう。文章作成からグラフや図面の作成、あるいは表計算、統計処理などに活用できるようにしていきましょう。				
教員の 実務経験		実務経験なし				

授業科目	人間と人間生活の理解 人間関係論		1 年次	1 単位	担当者	キャンベル早川久美子
			前期	3 0 時間		
目的 目標	目標：人間の個人および集団関係における関係性を理解し、人間関係を円滑に保つ方法について学ぶ					
授 業 計 画	回数	講 義 内 容				備 考
	1	1. オリエンテーション 2. 第 1 章 人間関係論とは				講義、演習
	2	1. 第 1 章 自己認知 2. ノート「関係的存在としての人間」				
	3	1. 第 2 章 対人関係と役割 2. ノート「被包感」あるいは「庇護性」				
	4	1. 第 3 章 態度と対人関係 ①態度と態度変化、②説得的コミュニケーション 2. ノート「リルケ：老人」				
	5	1. 第 3 章 態度と対人関係 ③攻撃、 ④援助 2. 第 4 章 集団と個人 ①集団の特性 ②集団での課題遂行 3. グループ研究に向けてグルーピング 4. エッセイ「馬耳東風」				
	6	1. 第 4 章 集団と個人 ③集団での問題解決と意思決定 ④リーダーシップ論 2. 第 5 章 コミュニケーション ①定義と目標 3. グループ研究〈その 1〉 進行についてグループ討議				
	7.	1. 第 5 章 コミュニケーション ②対人コミュニケーション③マスコミュニケーション ④ICT コミュニケーション⑤非言語的コミュニケーション 2. グループ研究〈その 2〉 クーリーの定義				
	8.	1. 第 6 章 カウンセリングと心理療法①カウンセリング・心理療法の理論とスキル 2. グループ研究〈その 3〉 資料：トラベルビーのコミュニケーション能力				
	9.	1. 第 6 章 カウンセリングと心理療法 ②看護への応用 2. グループ研究〈その 4〉				
	10.	1. 第 7 章 コーチング ①コーチングのスキルと理論 ②看護への応用 2. グループ研究〈その 5〉				
	11.	1. 第 9 章 保健医療チームにおける人間関係 2. プレゼンテーション及びグループ研究〈その 6〉 資料：ブルースト「失われた時を求めて」を含む				
	12.	1. グループ研究発表 2. 第 10 章 患者を支える人間関係 3. 第 11 章 家族を含めた人間関係				
	13.	1. 第 8 章 アサーティブ・コミュニケーション 2. 書く、話す				
	14.	1. まとめと復習(これまでのキーワード) 2. 自分の学び、考えた事を伝える				
	15	1. 終講試験と振り返り				筆記試験
評価方法	筆記試験 教科書・資料持ち込み可 100 点満点					
テキスト	医学書院 人間関係論					
参考図書						
Message	人間生活には不可欠なごく日常的な人間関係について、先人の考えや研究にふれることにより初めて気づかされる問題も多いと思います。それらについてメンバー同士が突き詰めて考え合い、看護実践に活かせるような学習の機会として関係性について考えを深めましょう。					
教員の 実務経験	実務経験なし					

授業科目		人間と人間生活の理解 教育学	1 年次	1 単位	担当者	中田 正浩
			後期	3 0 時間		
目的 目標		目標：人間形成における教育の機能・役割を理解し、主体的に学習する能力と看護の教育的 役割を認識する				
	回数	講 義 内 容				備 考
授 業 計 画	1	1. 社会のなかの看護と教育 2. 教育とはなにかー「教育」の概念				講義
	2	1. 教育の対象ー子ども観と発達 2. 社会変動と教育 3. 教育の組織化ー学校				
	3	1. 教授一人を教えるということ				
	4	1. 教訓ー他者との関わりを導く				
	5	1. 養護ー教育の受け手を見まもる				
	6	1. 発達ー教育を受けて成長する				
	7	1. 学びの場ー学校と家庭				
	8	1. 教育の目標と評価				
	9.	1. 教育のメディアー教育をデザインする				
	10	1. 教育の担い手ー専門性と専門職				
	11	1. 教育の場をつくりしきみ				
	12	1. キャリア教育(専門教育)				
	13	1. ジェンダーとセクシュアリティ 2. 特別ニーズ教育・インクルーシヴ教育				
	14	1. 生涯学習 2. シティズンシップ教育				
	15	1. 終講試験 2. まとめ				
評価方法		レポート・筆記試験 100 点満点とする				
テキスト		系統看護学講座基礎「教育学」，医学書院，2015.				
参考図書						
Message		人間を幅広く捉え、日々発展していく医療のなかで、個々の人権を尊重した教育的な関わりにつ いて考えていきましょう。また自己成長のためのキャリアについて考える機会となるよう臨みま しょう。				
教員の 実務経験		実務経験なし				

授業科目	人間と人間生活の理解 社会学		1 年次	1 単位	担当者	武田 祐佳
			前期	3 0 時間		
目的 目標	目標：社会構造や社会的存在としての人間と家族の機能を理解し、現代社会が抱える 諸問題について学ぶ					
授 業 計 画	回数	講 義 内 容				備 考
	1	1. 「社会」概念 2. 社会規範				講義 グループワーク DVD
	2	1. 社会化 2. 役割取得 3. 自己意識 4. I と Me				
	3	1. 役割 2. 事故呈示 3. 相互作用				
	4	1. 集団と組織のちがい 2. 集団規範ー同調と逸脱 3. 集団の分類 ゲマインシャフト／ゲゼルシャフト、第 1 次集団／第 2 次集団 コミュニティ／アソシエーション				
	5	1. 組織 ・官僚制的組織の特徴 ・組織における人間				
	6	1. 予言の自己成就 2. 社会的認知 3. 偏見、差別、の自己成就				
	7	1. 逸脱とラベリング				
	8	1. 家族（1） ・近代家族 ・日本の戦後の家族 ・家族の個人化・多様化				
	9	1. 家族（2） ・生殖医療 ・不妊をとりまく社会的・文化的問題 ・生殖医療と家族				
	10	1. 家族（3） ・高齢化の現況 ・高齢化に伴う家族生活の変化 ・高齢者の社会的ネットワーク				
	11	1. ジェンダー（1） ・性の多様性 ・社会化とジェンダー				
	12	1. ジェンダー（2） ・女性就労の現況 ・家庭生活に対する意識と行動				
	13	1. ジェンダー（3） ・ケアの現況 ・ケアとジェンダー				
	14	1. 自殺と社会 ・日本の自殺の現況 ・デュルケル「自殺論」				
	15	1. 終講試験 2. まとめ				筆記試験
評価方法	筆記試験 100 点満点					
テキスト	必要時資料配布					
参考図書						
Message	価値観が多様化している現代社会が抱える諸問題は多岐にわたります。学生自身が自からの課題として 講義に臨みましょう。					
教員の 実務経験	実務経験なし					

授業科目		人間と人間生活の理解 英語	1 年次	1 単位	担当者	下田 一次
			前期	3 0 時間		
目的 目標		目標：国際共通語としての英語によるコミュニケーションの基礎的能力を身につけると共に、看護活動に役立つ英語を学ぶ				
授 業 計 画	回数	講 義 内 容				備 考
	1	1. 困ったときの英会話/診療科名/患者の基本情報				講義 プリント DVD
	2	1. 診療手続き/症状				
	3	1. 入院時オリエンテーション				
	4	1. 病歴の聴取/病名 ①				
	5	1. 病歴の聴取/病名 ②				
	6	1. 検査				
	7	1. 産婦人科				
	8	1. 小児科/予防接種				
	9	1. 手術				
	10	1. 術後/日常看護 ①				
	11	1. 術後/日常看護 ②				
	12	1. こころのケア/文化や宗教の違い				
	13.	1. プリント課題学習				
	14	1. プリント課題学習				
	15	1. 終講試験 2. まとめ				
評価方法		筆記試験 100 点満点				
テキスト		知念クリスティーン他：クリスティーンのレベルアップ看護英会話，医学書院，2001.				
参考図書						
Message		臨床の場は国際化が進んでいます。世界共通語としての英語の理解は必要です。英会話ができるように予習復習を行い講義に臨みましょう。				
教員の 実務経験		高等学校の教諭として 40 年以上の経験を有し講義にあたっている。				

授業科目		人間と人間生活の理解 スポーツと健康科学	1 年次	1 単位	担当者	山口 典孝 森山 琢磨
			前期	3 0 時間		
目的 目標		目標：1.スポーツ、レクリエーションの意義を学び、健康生活と運動の関連を理解する。 2.運動をとおして自己の体力の向上と健全な身体の発達を図る				
授 業 計 画	回数	講 義 内 容				備 考
	1	1. 自己紹介 年間授業計画 2. スポーツライフマネジメントとは？ 3. 体力とは？				講義
	2	1. 体育実技 ドッチボール 3 チーム 8 分×6 試合				実技
	3	1.年齢に応じた運動・あそびのすすめ 2.トレーニングの生理学				講義
	4	1.体育実技 卓球 2 0 チーム ダブルス（一人 11 点×4 試合）				実技
	5	1.体育実技 バスケットボール 6 チーム 9 試合				実技
	6	1.体育実技 バトミントン 19 チーム ダブルス（一人 11 点×3 試合）				実技
	7.	1.講義 水分補給、熱中症対策 ビデオ				講義
	8.	1.体育実技 バレーボール 6 チーム（一人 4 試合 10 分）				実技
	9.	1.体育実技 卓球 ダブルス 20 組（一人 5 試合 11 点）				実技
	10.	1.体育実技 フットサル 6 チーム 全 9 試合（一人 3 試合）				実技
	11.	1.体育実技 バスケットボール 7 チーム 7 試合×6 分				実技
	12.	1.RICE 処置 2.ホルモンの定義				講義
	13.	1.体育実技 ソフトテニス				実技
	14.	1.体育実技 ドッジボール 3 試合				実技
	15.	終講試験				筆記試験
評価方法		筆記試験 100 点満点				
テキスト		筋・骨メカニクス リハビリ、スポーツのための機能解剖学；秀和システム				
参考図書						
Message		健康生活を支える運動について考え、自己の体力づくりと共にしっかり身体を動かし、心身のリフレッシュを図りましょう。				
教員の 実務経験		実務経験なし				

授業科目	人体の構造と機能 解剖生理学Ⅰ (総論・神経・筋骨格と生殖器他)		1 年次	1 単位	担当者	前田 裕子
			前期	3 0 時間		
目的 目標	目標：人体の各器官系統と、その働きについて学び、人体の構造と機能を統合して理解できる。					
授 業 計 画	回数	講 義 内 容				備 考
	1	総論 人体の区分 ①				講義 パワーポイント 資料
	2	人体の区分 ②				
	3	細胞の分裂、上皮組織、支持組織				
	4	骨組織、軟骨組織、筋組織、神経組織の区分				
	5	骨格(頭部の骨)、関節の種類				
	6	骨格(脊椎、上肢、下肢：骨盤まで)				
	7	骨格(自由下肢の骨格)、筋系(頭部、顔面)				
	8.	筋系 (背部、腹部、上肢、下肢)				
	9.	大腿・下腿の筋、筋の生理、神経の構造				
	10.	自律神経の構造と機能、脊髄				
	11.	大脳の構造と機能、延髄、橋、中脳の構造と機能、間脳の機能 小脳の構造				
	12.	末梢神経(脳神経、脊髄神経)				
	13.	脳波、睡眠、伝導路(反射、上行・下行伝導路) 感覚器(視覚)				
	14.	感覚器(聴覚・味覚・嗅覚) 男性生殖器系				
15.	女性生殖器系					
評価方法	筆記試験 100 点満点					
テキスト	医学書院 「解剖生理学 人体の構造と機能」					
参考図書						
Message	人体の構造はどうなっているのだろうかという既習の知識を想起し素朴な疑問を持って学習に臨みましょう。また看護を行う上で土台となる知識なので、覚えるのではなく理解して学習を進めることが大切です。					
教員の 実務経験	実務経験なし					

授業科目		人体の構造と機能 解剖生理学Ⅱ (総論・神経・筋骨格と生殖器他)	1 年次	1 単位	担当者	前田 裕子
			前期	3 0 時間		
目的 目標		目標：人体の各器官系統と、その働きについて学び、人体の構造と機能を統合して理解できる。				
授 業 計 画	回数	講 義 内 容				備 考
	1	呼吸器系(鼻・咽頭・喉頭・喉頭・気管気管支・肺胞)				講義 パワーポイント 資料
	2	呼吸のしくみ、呼吸の生理				
	3	循環器系(心臓の構造としくみ、血管の生理)				
	4	血管の総論、動脈系血管				
	5	静脈系血管、胎生期の循環、リンパ体幹				
	6	リンパ節、胸腺、脾臓 消化器系(口腔・歯・唾液腺)				
	7	消化器系(胃・小腸・大腸、排便のしくみ)				
	8.	消化器系(肝臓・脾臓)、腹膜、血液(赤血球)				
	9.	血液(白血球・血小板)、止血、血液型				
	10.	血漿、泌尿器系(腎の構造、尿道、膀胱、尿管)				
	11.	排尿のしくみ、体液(水の出納、電解質,PH の異常)				
	12.	免疫(体液性免疫、細胞性免疫、抗体の種類、 T リンパ球・B リンパ球の種類)				
	13.	免疫の異常(アレルギー、自己免疫疾患、免疫不全症) 体温の調節、ホルモンの種類(ステロイド、ペプチド、アミン等)				
	14.	下垂体―視床下部ホルモン、甲状腺ホルモン、血糖値を調整するホルモン 血中 Ca 濃度&調整するホルモン				
15.	副腎皮質・髄質ホルモン、性ホルモン、その他のホルモン					
評価方法		筆記試験 100 点満点				
テキスト		医学書院 「解剖生理学 人体の構造と機能」				
参考図書						
Message		人体の構造はどうなっているのだろうかという既習の知識を想起し素朴な疑問を持って学習に臨みましょう。また看護を行う上で土台となる知識なので、覚えるのではなく理解して学習を進めることが大切です。				
教員の 実務経験		実務経験なし				

授業科目	人体の構造と機能 生化学(栄養学含む)		1 年次	1 単位	担当者	国定由利香
			前期	3 0 時間		
目的 目標	目標：1．人間の栄養と代謝、恒常性とその調節について学び、人間の生命現象のメカニズムを理解する 2．食と健康の関わりの中で、食事療法の意義、実際を理解する					
授 業 計 画	回数	講 義 内 容			備 考	
	1	生体の成り立ちと生体分子			講義 資料適宜	
	2	生体を構成する物質、タンパク質の性質				
	3	酵素の性質と働き				
	4	細胞・アミノ酸・タンパク質・酵素、糖質の代謝				
	5	糖質の代謝				
	6	糖質の代謝				
	7	脂質の代謝				
	8	タンパク質の代謝				
	9	糖質・脂質・タンパク質の代謝				
	1 0	糖質・脂質・タンパク質の代謝、核酸の役割				
	1 1	核酸の役割				
	1 2	遺伝情報、栄養とは				
	1 3	日本人の食事摂取基準、基礎代謝、入院患者のための食事調整				
	1 4	食物と栄養、疾患別の食事、経管栄養と中心静脈栄養				
	1 5	終講試験(解説)				
評価方法	筆記試験 100 点満点					
テキスト	わかりやすい生化学 第4版 ヌーベルヒロカワ わかりやすい栄養学 第4版 ヌーベルヒロカワ					
参考図書						
学生への Message	この授業は、生化学の専門分野の知識を深める授業になります。また、臨床で役立つ食生活指導の実際も含まれます。しっかり教科書に目をとおりイメージを図り授業に臨んで下さい。					
教員の 実務経験	管理栄養士としての実務経験を 10 年以上有し講義にあたっている。					

授業科目		疾病の成り立ちと回復の促進 疾病治療論Ⅰ (総論・眼科系・耳鼻科系)	1 年次	1 単位	担当者	中川 三郎 久門 義正 山 村 匡
			前期	3 0 時間		
目的 目標		目標: 疾病の原因や成り立ちを理解し、形態による分類や全体の反応について理解する。				
授 業 計 画	回数	講 義 内 容				備 考
	1	病理で学ぶこと、細胞・組織の障害と侵襲				講義 パワーポイント 資料
	2	循環障害				
	3	炎症と免疫、移植と再生医療				
	4	感染症				
	5	代謝障害				
	6	老化と死				
	7	先天異常、遺伝子異常				
	8.	腫瘍 ①				
	9.	腫瘍 ②				
	10.	外耳・中耳・内耳の解剖生理、疾患、中耳手術				
	11.	聴覚・めまい鼻、聴力伝導、検査、治療				
	12.	咽頭・喉頭・嚥下障害の病態・症状・検査				
	13.	眼の構造と機能、病態生理、検査				
	14.	眼科領域における検査、治療				
15.	疾患の理解					
評価方法		筆記試験				
テキスト		医学書院 「病理学」「耳鼻咽喉科」「眼」				
参考図書						
Message		病理学総論は病気の原因・経過及び結果を追求し、病気における形態と機能の変化を明らかにすることにより病気の本態を究明する学問です。正常な人間の構造と機能とともに重要な学問ですから、解剖生理学等の既習学習を復習して臨みましょう。				
教員の 実務経験		各々が医師としての実務経験を 25 年以上有し講義にあたっている				

授業科目		疾病の成り立ちと回復の促進 疾病治療論Ⅱ (呼吸器系疾患・循環器系疾患)	1 年次	1 単位	担当者	中川 三郎 小栗 顕二
			前期	3 0 時間		
目的 目標		目標: 疾病の原因や成り立ちを理解し、形態による分類や全体の反応について理解する。				
授 業 計 画	回数	講 義 内 容				備 考
	1	呼吸器の構造と機能				講義 パワーポイント 資料
	2	呼吸器症状と病態生理 ①				
	3	呼吸器症状と病態生理 ②				
	4	呼吸器疾患の検査				
	5	肺疾患の治療、処置 ①				
	6	肺疾患の治療、処置 ②				
	7	感染症、結核				
	8.	間質性肺疾患、気道疾患				
	9.	呼吸不全、肺腫瘍				
	10.	循環器疾患の病理所見、				
	11.	心電図と不整脈				
	12.	虚血性疾患				
	13.	弁異常と先天異常と心筋症、心不全、肺性心など				
	14.	高血圧				
	15.	動・静脈、リンパ管疾患				
評価方法		筆記試験 100 点				
テキスト		医学書院 「呼吸器」「循環器」				
参考図書						
Message		生命に直結し系統の関連性があるので、しっかり解剖生理学を復習し授業に臨んで下さい。 そうすると関連性が理解できると思います。				
教員の 実務経験		各々が医師としての実務経験を 35 年以上有し講義にあたっている				

授業科目		疾病の成り立ちと回復の促進 疾病治療論Ⅲ (血液・造血系、内分泌・代謝系、 皮膚・アレルギー・膠原病)	1 年次	1 単位	担当者	陰 山 克 木田 隆雄 堀 木 聡
			前期	3 0 時間		
目的 目標		目標: 疾病の原因や成り立ちを理解し、形態による分類や全体の反応について理解する。				
授 業 計 画	回数	講 義 内 容				備 考
	1	血液の成分と機能				講義 パワーポイント 資料
	2	病歴聴取と身体所見、症候とその病態生理				
	3	赤血球の異常、白血球の異常				
	4	造血器腫瘍と治療、骨髄腫および類縁疾患				
	5	出血性疾患(血管異常及び血小板異常、凝固異常)				
	6	内分泌総論				
	7	甲状腺、副甲状腺、副腎皮質、副腎髄質、性腺等				
	8.	巨人症、尿崩症、甲状腺亢進・低下症				
	9.	糖尿病				
	10.	糖尿病合併症 ①				
	11.	糖尿病合併症 ②、脂質代謝				
	12.	メタボリック、高尿酸血症、電解質				
	13.	皮膚の構造、生理				
	14.	湿疹皮膚炎群、蕁麻疹、天疱瘡				
15.	感染症、悪性腫瘍					
評価方法		筆記試験 100 点満点				
テキスト		医学書院 「血液・造血器」「内分泌・代謝」「アレルギー・膠原病・感染症」				
参考図書						
Message		この科目は、全身への影響が大きく生命に直結しますが、内部環境の恒常性の維持に関与して難しいという印象があると思います。いずれにしても、解剖生理学が重要ですから既習学習をして臨みましょう。				
教員の 実務経験		各々が医師としての実務経験を 30 年以上有し講義にあたっている				

授業科目	疾病の成り立ちと回復の促進 疾病治療論Ⅳ (消化器系・脳神経系)		1 年次	1 単位	担当者	良元 文弘 川口正一郎
			前期	3 0 時間		
目的 目標	目標：疾病の原因や成り立ちを理解し、形態による分類や全体の反応について理解する。					
授 業 計 画	回数	講 義 内 容				備 考
	1	消化器の検査と治療 ①				講義 パワーポイント 資料
	2	消化器の検査と治療 ②				
	3	食道・胃・十二指腸				
	4	腸の疾患・肝炎				
	5	肝不全・肝硬変・膵疾患				
	6	手術侵襲と生体反応、麻酔法				
	7	全身麻酔(呼吸管理)				
	8.	全身麻酔(呼吸管理、栄養・体液管理)、 低侵襲手術				
	9.	末梢神経系・血管の解剖生理				
	10.	脳神経系の症状と病態生理				
	11.	検査・診断と治療・処置				
	12.	クモ膜下出血				
	13.	脳血管障害 (CVD)：脳梗塞、脳出血				
	14.	CVD：クモ膜下出血、もやもや病				
	15.	頭部外傷 脳腫瘍、脳ヘルニア、				
評価方法	筆記試験					
テキスト	医学書院 「消化器」「臨床外科看護総論」「脳・神経」					
参考図書						
Message	食えることや排泄することは日常的で、消化器系が障害されることはイメージしやすいと思います。また脳神経系の障害は日常生活に大きな影響を与えるところです。いずれにしても解剖生理学の知識が重要です。手術療法については新たな専門的な知識の学習になります。いずれにしても解剖生理学の復習をして臨みましょう。					
教員の 実務経験	各々が医師としての実務経験を 30 年以上有し講義にあたっている					

授業科目		疾病の成り立ちと回復の促進 疾病治療論Ⅴ (運動器系・腎系・泌尿器系・ 女性生殖器官系)	1 年次	1 単位	担当者	河口 泰之 塚田 直紀 栗岡 英行 吉 川 聡 好川 元庸
			前期	3 0 時間		
目的 目標		目標：疾病の原因や成り立ちを理解し、形態による分類や全体の反応について理解する。				
授 業 計 画	回数	講 義 内 容				備 考
	1	運動器症状とその生理				講義 パワーポイント 資料
	2	運動器疾患の診察と診断				
	3	骨折、捻挫、打撲、神経損傷				
	4	内因性の運動器疾患(先天性疾患)				
	5	内因性の運動器疾患(骨腫瘍、上肢)				
	6	内因性の運動器疾患(脊椎の疾患)				
	7	腎・泌尿器の構造と機能、腎不全の病態生理				
	8.	急性・慢性腎不全、透析治療、尿検査・腎機能検査				
	9.	腎移植、腎疾患各論				
	10.	尿路の通過障害と機能障害				
	11.	尿路・性器の腫瘍				
	12.	女性生殖器の構造と機能				
	13.	子宮疾患、卵管・卵巣腫瘍				
	14.	乳房疾患				
	15.	不妊症				
評価方法		筆記試験 100 点満点				
テキスト		医学書院 「運動器」「腎・泌尿器」「女性生殖器官」				
参考図書						
Message		解剖生理微生物などの知識が必要です。学習進度も速いのでしっかり復習をして臨みましょう。				
教員の 実務経験		各々が医師としての実務経験を有し講義にあたっている				

授業科目		疾病の成り立ちと回復の促進 微生物学	1 年次	1 単位	担当者	笠原 敬
			前期	30 時間		
目的 目標		目標：微生物の性状、病原性とそれによって生じる病態としての感染症を理解する。さらに感染症の発生動向、行政対応、治療および予防介入について理解する				
授 業 計 画	回数	講 義 内 容				備 考
	1.	1. 微生物と微生物学		2. エネルギー代謝と物質代謝		講義
	2.	1. 分裂と増殖		2. 原虫の伝播経路、感染様式		講義 資料
	3.	1. ウイルスの性質		2. 個体間のウイルスの広がり		講義
	4.	1. 感染に対する生体防御機構		2. 自己寛容と自己免疫		講義
	5.	1. 感染源、感染経路からみた感染症 2. 消毒薬に対する病原体の抵抗性				講義 資料
	6.	1. 感染予防の理念と実際		2. その他の治療法		講義
	7.	1. 感染症の現状と対策		2. 百日咳菌		講義
	8.	1. グラム陰性 通性菌 2. ヘリコバクター・ピロリー菌				講義 資料
	9.	1. グラム陽性 桿菌		2. スピロヘータ		講義 資料
	10.	1. ボレリア 2. 大腸バランチジウム				講義
	11.	1. DNA ウイルス 2. 狂犬病ウイルス				講義
	12.	1. 狂犬病ウイルス 2. ヒト免疫不全ウイルス				講義
	13.	1. 肝炎ウイルス 2. プリオン				講義
	14.	1. 問題集演習				講義
	15.	終講試験				筆記試験
評価方法		筆記試験 100 点満点				
テキスト		医学書院 微生物学				
参考図書						
Message		近年感染症は医療に於いて重要な課題となっています。特に病院における感染症の発現とインフルエンザやエイズのような世界的な広がりをもたらす病原体について正確な知識を持つことによって、臨床現場で役立てましょう。				
教員の 実務経験		医師としての実務経験を 20 年以上有し講義にあたっている。				

授業科目	疾病の成り立ちと回復の促進 薬理学		1 年次	1 単位	担当者	福田 里美
			後期	30 時間		
目的 目標	目標：薬理作用の基礎知識に基づき、薬物の特徴、作用機序、人体への影響および薬物の管理について理解できる					
授 業 計 画	回数	講 義 内 容				備 考
	1.	薬物療法の目的、薬理作用の用語解説、治療域と安全性の問題 受容体の種類と作用薬、拮抗薬の違い、経口与薬と注射薬の特徴				講義 パワーポイント 資料
	2.	薬の投与経路、薬物動態に関係する要因と注意事項 半減期と血中濃度モニタリングの意義、新生児、高齢者の薬物療法の注意点				
	3.	薬物耐性と依存の問題、薬物動態学および薬力学的要因からくる副作用 腎障害、肝障害患者の注意点、臓器特異性副作用が生じる薬剤				
	4.	受容体に関係する副作用、管理医薬品の種類と注意、新薬開発の流れ、感染症 治療の用語説明、ペニシリン系、セフェム系、アミノグリコシド系抗生剤				
	5.	テトラサイクリン系、マクロライド系、ニューキノロン系の特徴、副作用 抗結核薬、抗真菌薬、抗ウイルス薬、抗がん薬の基本的事項と各種作用機序				
	6.	免疫のしくみ、免疫抑制薬と増強薬、抗炎症薬の作用機序と副作用のおこる仕 組み、アラキドン酸カスケード、副腎皮質ステロイドの副作用				
	7.	抗リウマチ薬の作用、痛風治療薬の特徴、作用点の違い、自律神経の基礎 受容体の種類、伝達物質の違い、作用薬、拮抗薬の臨床作用について				
	8.	副交感神経受容体に対しての作動薬、拮抗薬について、筋弛緩薬の種類と作用 機序、麻酔薬・催眠薬的使用方法について				
	9.	抗精神病薬の作用の仕方と副作用.うつ状態の発現と抗うつ薬の作用点、てん かん、発作の型と抗てんかん薬の使い分け、麻薬性鎮痛薬の基本作用と治療上 の注意点				
	10.	降圧薬について、狭心症治療の考え方、うつ血性心不全におけるジギタリスの 効果				
	11.	ジギタリス以外のうつ血性心不全治療薬、利尿薬の薬理作用 不整脈治療薬の分類、脂質異常の治療薬剤、貧血症の原因の区別と治療方法				
	12.	抗凝固薬のヘパリン・ワッファリン・血栓溶解薬・気管支喘息治療・消化性潰 瘍薬の種類と作用機序と問題点、さまざまなホルモン関連薬				
	13.	糖尿病用薬の種類と効能、骨粗鬆症治療薬、ビタミン剤の区別、欠乏症 皮膚科、眼科用剤、消毒薬の使用目的と使い分け、輸液剤の種類と使用目的				
	14.	要点まとめ				
	15.	終講試験 問題解説				
評価方法	筆記試験 100 点満点					
テキスト	医学書院 「薬理学」					
参考図書	適宜資料の配布あり					
Message	看護師は患者と接する機会が最も多く薬物治療を受けている患者の回復に果たす役割は大きい。 患者がよい治療効果を得られるように薬物治療への理解を深め、看護実践で活かせるよう予習復 習を行い積極的に授業に臨みましょう。					
教員の 実務経験	薬剤師として実務経験を 10 年以上有し講義にあたっている					

授業科目		健康支援と社会保障制度 総合医療論		1 年次	1 単位	担当者	上川 比呂勝
				前期～後期	15 時間		
目的 目標		目標：現代の保健・医療・福祉の現状とその問題を理解し、看護師としての役割を理解する					
授 業 計 画	回数	講 義 内 容					備 考
	1.	1. 医療システム コメディカルスタッフ、施設、医療保険、介護保険					講義 資料
	2.	1. 医療保険 各国との比較 2. 介護保険制度					
	3.	1. 救急医療 2. 災害医療 トリアージ クラッシュシンドローム					
	4.	1. 医療安全 健康格差 2. ヘルスプロモーション					
	5.	1. 老化とは 精神病 ノーマライゼーション 2. 近代医療の誕生					
	6.	1. 日本の近代化と医療の発達 薬害 医療機器 臓器移植 ゲノム医療 胎児診断 2. 医療の国際化					
	7.	1. 補完医療 患者の権利 インフォームドコンセント 2. 安楽死 尊厳死					
	8	終講試験					
評価方法		筆記試験 100 点満点					
テキスト		医学書院 学生のための医療概論 第3版					
参考図書		適宜資料配布					
Message		これからの医療の特徴は専門性が異なるコメディカルスタッフがチームを組み、連携を図りながら質の高い医療サービスを展開する必要があります。そのために講義では専門職に共通する医療の基礎知識を学習していきましょう。					
教員の 実務経験		医師としての実務経験を 15 年以上有し講義にあたっている。					

授業科目		健康支援と社会保障制度 公衆衛生	1 年次	1 単位	担当者	三宅 眞理
			前期	15 時間		
目的 目標		目標：人々を取り巻く環境や疫学・保健統計を学び、健康保持・増進・予防のための保健活動を理解する				
授 業 計 画	回数	講 義 内 容				備 考
	1.	1. 公衆衛生の概念 2. 健康と環境、疫学的方法				講義 資料
	2.	1. 健康の指標 2. 感染症とその予防				
	3.	1. 食品保健と栄養 2. 生活環境の保全				
	4.	1. 医療・介護の保健制度 2. 地域保健活動				
	5.	1. 母子保健 2. 学校保健				
	6.	1. 生活習慣病 2. 難病対策 3. 健康教育とヘルスプロモーション				
	7.	1. 精神保健福祉 2. 産業保健 3. これからの公衆衛生				
	8	終講試験(筆記試験)				
評価方法		筆記試験 (4 5 分間) 100 点満点				
テキスト		ヌーベルヒロカワ わかりやすい公衆衛生学 第3版				
参考図書		適宜資料配布				
Message		公衆衛生問題は、国内はもとより世界的規模で様々なことが起こっており、教科書の知識を暗記するだけでなく、公衆衛生への興味と、これからの公衆衛生を展望していけることが必要だと思います。限られた時間の中でそのような状況に対応させていくためには事前学習として臨みましょう。				
教員の 実務経験		実務経験なし				

授業科目		健康支援と社会保障制度 看護関連法規		2 年次	1 単位	担当者	谷川百合子
				前期	15 時間		
目的 目標		目標：保健・医療・福祉の法律の概要を学習し、人々の健康を守る看護職に必要な法規について学ぶ。					
授 業 計 画	回数	講 義 内 容				備考	
	1.	1. 看護関係法規授業のガイダンス ・准看護課程で学んだことは各自復習しておく ・GW の課題はメンバー全員で調べ発表する ・法の解釈、問題点、改正されたことなどを主に調べる 2. 法の概念 3. 看護法：保健師助産師看護師法、看護師等の人材確保の促進に関する法。医療法、医療関係資格法、医療を支える法について。G 発表・まとめ				講義 GW (授業開始までに課題学習を実施)	
	2.	1. 保健衛生法：地域保健法、精神・母子・学校安全保健法、がん対策基本法、難病に関する法。G 発表・まとめ				GW (授業開始までに課題学習を実施)	
	3.	1. 感染症に関する法、食品に関する法、薬務法、環境衛生法、薬務法環境衛生法。G 発表・まとめ				GW (授業開始までに課題学習を実施)	
	4.	1. 社会保険法：健康保険法、国民健康保険法、高齢者の医療確保に関する法、 2. 介護保険法、福祉法。G 発表・まとめ				講義 GW (授業開始までに課題学習を実施)	
	5.	1. 労働法：労働基準法、 2. 労働者災害補償保険法、育児休業法、 社会基盤整備等に関する法：配偶者からの暴力の防止に関する法、 G 発表・まとめ				講義 GW (授業開始までに課題学習を実施)	
	6.	1. 医療過誤と法的責任：民事責任、刑事責任、行政責任 GW 発表まとめ				講義 GW	
	7.	1. 法と生命倫理 GW まとめ 2 練習問題				講義 GW 国試の過去問を含む	
	8.	終講試験 解説				45 分	
評価方法		筆記試験 (45 分間) 100 点満点					
テキスト		系統看護学講座 健康支援と社会保障制度④ 看護関係法令 森山幹夫著 医学書院					
参考図書		ナーシング・グラフィカ 健康支援と社会保障制度④ 看護をめぐる法と制度、平林勝政他著 メディカ出版、適宜資料配布					
Message		法を単に知識として学ぶだけでなく、なぜこのような内容になっているのか、看護との関係はどのようなのかについて、日常生活や看護業務での経験、さらにテレビ、新聞、インターネットなどからの情報とも関連づけて学習するように、特に GW では積極的に参加することの意味について振り返りを行い、授業に臨んでほしい。					
教員の 実務経験		看護師の実務経験 11 年、6 年間の在宅看護論実習指導経験を重ね。専任教員としての実務経験を 40 年有し講義にあたっている。					

授業科目		健康支援と社会保障制度		1 年次	1 単位	担当者	青山和由 北川晶子 山本富貴代
		社会福祉		前期	30 時間		
目的 目標		目標：社会福祉と社会保障について学習し、人々のニーズや社会資源の活用方法を理解する。 社会福祉における看護師の役割を理解する					
授 業 計 画	回数	講 義 内 容					備 考
	1.	1. 社会保障制度と社会保障					講義 パワーポイント 資料
	2.	1. 現代社会の変化と社会保障・社会福祉の動向					
	3.	1. 医療保障 医療保障制度の沿革・構造と体系 健康保険と国民健康保険					
	4.	1. 医療保障 高齢者医療制度 保険診療のしくみ 公費負担医療 国民医療費					
	5.	1. 介護保障 介護保険制度創設の背景と介護保障の歴史 介護保険制度の概要と課題と展望					
	6.	1. 所得保障 所得保障制度のしくみ 年金保険制度 社会手当 労働保険制度					
	7.	1. 公的扶助 貧困・低所得問題と公的扶助制度 生活保護制度のしくみ 低所得者対策 近年の動向					
	8.	1. 社会福祉の分野とサービス 高齢者福祉					
	9.	1. 社会福祉の分野とサービス 障害者福祉					
	10.	1. 社会福祉の分野とサービス 児童家庭福祉					
	11.	1. 社会福祉実践と医療・看護 社会福祉援助とは 個別援助技術 集団援助技術					
	12.	1. 社会福祉実践と医療・看護 関節援助技術と関連援助技術 社会福祉援助の検討課題					
	13.	1. 社会福祉実践と医療・看護 連携の重要性 連携の場面とその方法					
	14.	1. 社会福祉の歴史 福祉史の枠組み 福祉史の 3 段階 前近代の救済の諸相 近代救済の諸相 現代社会への構造変化と生活支援 戦後の社会福祉の再生					
	15.	終講試験・まとめ					
評価方法		筆記試験 100 点満点					
テキスト		医学書院 社会福祉 健康支援と社会保障制度 [3]					
参考図書		適宜資料配布					
Message		日常生活の中で社会保障内容や社会福祉の制度や施策には具体的にどのようなものがあるのか、予備知識をもって講義に臨ませたいと思います。					
教員の 実務経験		各々、社会福祉士として 10 年以上の実務経験を有し講義にあたっている。					

授 業 科 目		基礎看護学援助論Ⅰ (看護の本質、安全・安楽 コミュニケーション)	年 次	1 年次	単	1 単位	担 当 者	牧瀬 真由美 久保田千代美
目 的 目 標		1. 「看護技術とは何か」について考えることができる。 2. 看護の方法としての技術の考え方を深める。 3. 感染防止のための実践の重要性や医療従事者の安全確保の技術について理解する。 4. 援助的人間関係の形成について理解する。						
授 業 計 画	回数	講 義 内 容					備 考	
	1	看護技術とは					講義・演習 パワーポイント・資料	
	2	苦痛の緩和・安楽確保の技術						
	3	苦痛の緩和・安楽確保の技術						
	4	罨法						
	5	感染防止の技術						
	6	感染防止の技術						
	7	安全確保の技術						
	8	コミュニケーションの意義と目的						
	9	意志決定支援のためのコミュニケーション						
	10	援助的コミュニケーションの概要						
	11	ディグニティセラピー						
	12	効果的なカンファレンス						
	13	コミュニケーション障害への対応						
	14	レフレクション						
	15	終講試験						
評価方法		筆記試験 100 点満点 出席状況、授業態度他						
テキスト		基礎看護技術Ⅰ（医学書院）、基礎看護技術Ⅱ（医学書院）						
参考図書		基礎看護技術（メヂカルフレンド社）実践に生かす看護理論 19 第2版（サイオ出版） 基礎看護技術（ナーシンググラフィカ） 演習・実習に役立つ基礎看護技術（ヌーヴェルヒロカワ）						
Message		看護技術を学ぶにあたり、「技術とは何か」について改めて考えてみましょう。 なかでも、安全・安楽は、看護援助に共通する技術として、看護援助を行う際にいつでも念頭に置かなければなりません。また看護技術の実践では、人と人との間に看護技術が提供され、なんらかの変化がおこる相互の関係性を基盤にしています。対象者のプライバシーを守り、尊厳を守る姿勢が患者さんの自由を尊重し、意思決定を支援することに繋がります。科学的根拠に基づき、多職種で連携することができる技術が実践できるように臨みましょう。						
教員の 実務経験		各々看護師としての実務経験 10 以上及び専任教員として 5 年以上の経験を重ね講義にあたっている。						

授業科目	基礎看護学援助論Ⅲ (看護過程)	年次	1 年次	単位	1 単位	担当者	小川 里予		
			前期	時間	30 時間				
目的 目標		・看護過程とは何かがわかる。 ・看護過程の構成要素がわかり、各段階についてその基本的な考え方と実際を学ぶ。 ・事例を通して看護展開の実際を学ぶ。							
授業計画	回数	講義内容				備考			
	1	『看護過程』とは				看護診断ハンドブック			
	2	看護過程を展開する際に基盤となる考え方							
	3	アセスメント①～情報収集～							
	4	アセスメント②～情報収集の方法と分析～							
	5	アセスメント③～全体像の把握～							
	6	関連図の作成							
	7	看護問題の明確化①～看護問題のみきわめ～				個人ワーク グループワーク 個人ワーク グループワーク			
	8	看護問題の明確化②～看護問題の優先順位～							
	9	看護計画～期待される成果の明確化と計画の立案～							
	1 0	事例を通して①～アセスメント～							
	1 1	事例を通して②～関連図～							
	1 2	事例を通して③～看護問題の明確化～							
	1 3	事例を通して④～看護計画の立案～							
	1 4	評価・修正と看護記録							
	1 5	まとめ							
評価方法		筆記試験、提出物 100 点満点							
テキスト		系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護技術Ⅰ (医学書院) 看護診断ハンドブック							
参考図書		実践に生かす看護理論 19 第 2 版 (サイオ出版)							
message		看護過程は、看護を実践するうえでとても大切な思考です。この思考を学び全体をとらえ、どのような看護が必要か考えられるように学びましょう。							
教員の 実務経験		看護師として実務経験 15 年以上及び専任教員として 10 年の実績を積み講義にあたっている。							

授業科目		基礎看護学援助論Ⅳ (日常生活の援助)	年次	1 年次	1 単位	担当	牧瀬真由美 橋本季代子 小川 里予
				前期	30 時間		
目的 目標		目 的： 1. 日常生活援助における基礎的理論や技術を習得し、根拠に基づいた看護実践ができる 基礎的能力を養う 学習目標： 1. 対象者の日常生活を整えるために必要な環境・活動・食事・排泄・睡眠・清潔・衣生活に関する 基礎的知識・技術・態度が習得できる。 2. プライバシーに配慮し、看護技術を原理・原則に基づき安全・安楽に実施する方法が習得できる。					
授 業 計 画	回数	講 義 内 容					備 考
	1	1. 病床環境の調整の基礎知識 2. 病床環境の援助					講義
	2	3. リネン交換・環境整備					演習
	3	1. 食事援助の基礎知識 2. 栄養状態および食欲・摂食能力のアセスメント 3. 摂食・嚥下訓練 4. 非経口的栄養摂取の援助					講義
	4	1. 食事介助					演習
	5	1. 自然排泄の基礎知識					講義
	6	1. 自然排泄の介助 2. 排泄障害時の援助					講義
	7	1. 基本的活動の基礎知識 2. 基本的活動の援助 3. 睡眠・覚醒の基礎知識 4. 睡眠・休息の援助					講義
	8	1. 移動・移乗の援助の実際					演習
	9	1. 清潔の援助の基礎知識 2. 清潔の援助					講義
	10	1. 衣生活の援助の基礎知識 2. 衣生活の援助					講義
	11 12	1. 全身清拭・寝衣交換の実施					演習
	13 14	1. 洗髪の実施					演習
	15	1. 終講試験 2. まとめ					
	評価方法		筆記試験、課題提出、演習参加状況、出席日数、授業態度 100 点満点				
テキスト		基礎看護技術Ⅱ（医学書院）					
参考図書		基礎看護技術講義・演習ノート（医学芸術社） 看護ケアの根拠と技術（医歯薬出版株式会社） 基礎看護技術Ⅱ（メヂカルフレンド社） 看護技術がみえる①②（メディクメディア） 写真でわかる実習で使える看護技術（インターメディカ）					
Message		基礎看護技術は看護学の基盤です。そのなかでも、日常生活援助とは人間が健康的に生きていく ために必要不可欠な援助技術です。対象者にとって必要な援助とは何かを考え、対象者に応じた 援助が提供できるよう、学習を深めていきましょう。					
教員の実務 経験		各々が実務経験 5 年以上及び専任教員として 5 年以上の経験を重ね講義にあたっている。					

授業科目		基礎看護学援助論Ⅵ (臨床看護総論)	1 年次 後期	1 単位 30 時間	大庭未央
目的・目標		1. 基本的な看護の知識や技術を統合し、看護実践に応用するプロセスを学ぶ 2. 事例患者を通して経過・症状・治療から看護実践を導く科学的根拠がわかる 3. グループワーク・発表を通して学習を共有するすべを身につけ、他者に伝えることができる			
授 業 計 画	回数	講義内容			備考
	1	Ⅰ. 健康上のニーズをもつ対象者と家族への看護 Ⅱ. 健康状態に基づく看護 1. 健康の維持・増進			講義 ワークシート
	2	2. 急性期の看護			講義 ワークシート
	3	3. 慢性期の看護 4. リハビリテーション期の看護			講義 ワークシート
	4	5. 終末期の看護 Ⅲ. 演習 演習 1 回目 1. 演習の進め方 2. 事例について 3. 学習計画立案			講義 ワークシート GW
	5	演習 2 回目 4. 学習成果確認			GW
	6	演習 3 回目 4. 学習成果確認			GW
	7	演習 5 回目 5. 学習成果発表			発表
	8	終講試験と解説			筆記試験 解説
評価方法		提出物 グループワーク参加度 終講試験			
参考図書		臨床看護総論 (医学書院) 基礎看護技術 (医学書院) 看護学概論 (医学書院) 臨床看護総論 (メディカ出版) 臨床外科看護総論 (医学書院)			
Message		臨床看護総論は、健康障害をもつ対象者の状態に応じた看護を考え、実習直前に実践とつなげていく能力を育むための授業です。これまでの既習学習と重なる部分も多いので、事前学習・自己学習を積み、グループ学習での学びに貢献できる力も養いましょう。			
教員の 実務経験		実務経験に於いては看護師として 20 年以上及び専任教員として 4 年の経験を有し講義にあたっている。			

授業科目		成人看護学概論	1年次	1単位	担当者	橋本 季代子
			前期	30時間		
目的 目標		1 成人各期にある対象の特徴について理解できる 2 成人期における保健問題・成人保健の動向について理解できる 3 成人期にある対象の健康に影響する因子を理解し、健康を維持・増進するための看護の役割について理解できる				
授 業 計 画	回数	講 義 内 容				備 考
	1	第1章 成人と生活 1) 生涯発達の特徴 2) 成人各期における発達課題 3) 生活を営むこと、働くこと、家族であること				講義
	2	第2章 生活と健康 1) わが国における生活と健康の特徴 2) 生活環境と特徴 第4章 ヘルスプロモーションと看護 1) 生活と健康を守り、はぐくむシステム 2) 保健・医療・福祉システムの連携				講義
	3	第3章 成人への看護アプローチの基本 1) 危機の定義と特徴 2) 成人患者と看護師の人間関係				講義
	4 ～ 7	第5章 健康をおびやかす要因と看護 1) 健康バランスの構成要素 2) 健康バランスに影響を及ぼす要因 3) 生活行動がもたらす健康問題とその予防 4) 生活習慣の動向と対策、指導についてまとめる				講義 GW
	8 9	第6章 健康生活の急激な破綻から回復を促す看護 第11章 治療過程にある患者への看護技術 第14章 新たな治療法、先端医療と看護				講義
	10 11	第7章 慢性病との共存を支える看護 第10章 学習者である患者への看護技術 第13章 療養の場を移行する人々への看護技術 第8章 障害がある人の生活とリハビリテーション				講義
	12 ～ 14	第12章 症状マネジメントにおける看護技術 第9章 人生の最期のときを支える看護				講義
	15	終講試験				
	評価方法		筆記試験 提出物 出席状況			
テキスト		系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学① 医学書院				
参考図書		国民衛生の動向 2018/2019 ナーシング・グラフィカ 成人看護学概論				
Message		成人期は人生の中で最も長く、地域、職場、家庭において責任や役割を担う時期です。その段階にある人を全人的に理解するために学習していきます。内容が幅広い上に新しい言葉もたくさん出てきますので、しっかり予習復習していきましょう。				
教員の 実務経験		看護師として実務経験を 25 年以上及び専任教員の実務経験 5 年有し講義にあたっている				

授業科目	成人看護学援助論Ⅰ	年次	1 年次	単位	1 単位	担当者	橋本 季代子 杉田 香苗
			後期	時間	30 時間		
目的 目標	目標：１．成人期にある人々とその家族の特徴を理解し、成人みずから健康上の課題を解決できるための援助方法を学ぶ。 ２．成人の発達、生活習慣と疾患の発症、経過への影響を理解する。						
授業計画	回数	講義内容					備考
	1	第１章．循環機能障害をもつ成人の看護 1. 統計、解剖生理復習 疾患の経過と看護(急性期・回復期・慢性期)					講義 パワーポイント グループワーク
	2	2. 症状に対する看護(胸痛、動悸、浮腫、呼吸困難、チアノーゼ、失神)					
	3	3. 検査を受ける患者の看護(心臓カテーテル法、心電図、運動負荷試験、血行動態モニタリング、動脈血ガス分析、画像診断)					
	4	4. 治療を受ける患者の看護(薬物療法、カテーテル治療、手術療法)					
	5	5. 疾患をもつ患者の看護（虚血性心疾患、心不全、血圧異常、不整脈）					
	6	第２章．内分泌機能障害をもつ成人の看護 1. 現代社会における内分泌・代謝疾患と看護 患者の特徴と看護の役割					
	7	2. 疾患の経過と看護(急性期・慢性期・継続看護)					
	8	3. 主要疾患と看護 下垂体疾患、副甲状腺疾患、副腎疾患、糖尿病、脂質異常症					
	9	4. バセドウ病患者の看護 (ボディイメージの変化と援助、診断の受け止め方と援助、服薬管理)					
	10	5. ２型糖尿病患者の看護 (合併症、進展予防のための治療、自己管理能力、療養に向かう心理状態)					
	11	第３章．消化・吸収機能障害をもつ成人の看護 1. 症状に対する看護（おくび、胸やけ、吐き気、嘔吐、腹痛、吐血、下血、下痢、便秘、腹部膨満、食欲不振と体重減少、黄疸）					
	12	2. 検査を受ける患者の看護（造影検査、内視鏡検査）					
	13	3. 治療を受ける患者の看護（手術療法）					
	14	4. 疾患をもつ患者の看護①(食道癌、胃がん、大腸がん)					
15	5. 疾患をもつ患者の看護②(膵臓がん、肝硬変)						
評価方法	筆記試験 提出物						
テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学(3)(5)(6)						
参考図書	国民衛生の動向 病気がみえる(メディックメディア) ハートナーシング(メディカ出版)						
Message	既習の解剖生理学、疾病治療論などの知識を活用し、疾患をもつ対象の看護における基礎知識を学習します。解剖生理学、疾病治療の復習は勿論のこと、対象理解を深めるために基礎看護学概論、成人看護学概論の復習をして臨みましょう。						
教員の 実務経験	各々看護師として実務経験 10 年以上、専任教員経験 5 年以上を有し講義にあたっている						

授業科目	成人看護学援助論Ⅱ	年次	1 年次	単位	1 単位	担当者	米澤 慶子 檜田 恵子 杉田 香苗
			後期	時間	30 時間		
目的 目標	目標：１．成人期にある人々とその家族の特徴を理解し、成人みずから健康上の課題を解決できるための援助方法を学ぶ。 ２．成人の発達、生活習慣と疾患の発症、経過への影響を理解する。						
授 業 計 画	回数	講義内容				備考	
	1	第 1 章．呼吸機能障害をもつ成人の看護 １．医療の動向と看護 ２．症状に対する看護(咳嗽、喀痰)				講義 パワーポイント グループワーク	
	2	３．症状に対する看護(血痰、喀血、胸痛、呼吸困難)					
	3	４．検査を受ける患者の看護(内視鏡、肺組織検査) ５．吸入療法を受ける患者の看護					
	4	６．酸素療法を受ける患者の看護(酸素吸入、在宅酸素療法)					
	5	７．人工呼吸器を装着する患者の看護(メカニズム、陽圧呼吸)					
	6	第 2 章．血液・造血機能障害をもつ成人の看護 １．血液の成分と機能(解剖生理)					
	7	２．貧血のある患者の看護 日常生活の管理、異常の早期発見、治療に対する援助					
	8	３．出血傾向にある患者の看護 出血傾向とは 日常生活の管理、異常の早期発見					
	9	４．造血器腫瘍患者の看護① 易感染状態にある患者の看護					
	10	５．造血器腫瘍患者の看護② 主要な検査と看護、治療に対する援助					
	11	第 3 章．脳・神経機能障害をもつ成人の看護 １．症状、障害をもつ患者の看護①(意識障害、言語障害、認知症)					
	12	２．症状、障害をもつ患者の看護② (運動・感覚機能障害、痙攣、頭蓋内圧亢進症状)					
	13	３．治療、処置を受ける患者の看護① (開頭手術、薬物療法、リハビリテーション)					
	14	４．治療、処置を受ける患者の看護② (化学療法、放射線療法)					
	15	５．疾患をもつ患者の看護 (脳血管障害、脳腫瘍、ALS)					
評価方法	筆記試験 提出物						
テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学(2)(4)(7)						
参考図書	国民衛生の動向 病気がみえる(メディックメディア)						
message	既習の解剖生理学、疾病治療論などの知識を活用し、疾患をもつ対象の看護における基礎知識を学習します。解剖生理学、疾病治療の復習は勿論のこと、対象理解を深めるために基礎看護学概論、成人看護学概論の復習をして臨みましょう。						
教員の 実務経験	各々看護師としての実務経験を 10 年以上有し講義にあたっている。						

授業科目	成人看護学援助論Ⅲ	年次	1 年次	単位	1 単位	担当者	陣内 里江 永富 加代子 橋本 季代子
目的 目標	目標：１．成人期にある人々とその家族の特徴を理解し、成人みずから健康上の課題を解決するための援助方法を学ぶ。 ２．成人の発達、生活習慣と疾患の発症、経過への影響を理解する。 ３．事例を用いて看護過程の展開を行い、成人期にある対象とその家族に応じた援助ができる。						
授業計画	回数	講義内容					備考
	1	第1章. 腎・泌尿器機能障害をもつ成人の看護 1. 医療の動向と看護 2. 患者の特徴と看護の役割					講義 パワーポイント グループワーク
	2	3. 症状に対する看護 4. 検査を受ける患者の看護					
	3	5. 内科的治療を受ける患者の看護（治療・処置、疾患を持つ）					
	4	6. 透析療法を受ける患者の看護					
	5	7. 泌尿器科的治療を受ける患者の看護					
	6	第2章. 運動機能障害をもつ成人の看護 1. 援助のための知識と技術					
	7	2. 検査、保存療法を受ける患者の看護					
	8	3. 手術を受ける患者の看護					
	9	4. 経過に応じた患者の看護					
	10	5. 疾患を持つ患者の看護					
	11	第3章. 事例展開 1. 事例紹介（アセスメントの視点）					
	12	2. アセスメント（ゴードン 11 パターン）					
	13	3. 関連図作成					
	14	4. 問題／看護診断 援助計画／介入策立案					
	15	5. 援助計画／介入策確認 発表					
評価方法	筆記試験 提出物 出席状況						
テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学（8）（10）						
参考図書	国民衛生の動向 病気がみえる(メディックメディア) 看護診断ハンドブック 今日の治療薬						
message	既習の解剖生理学、疾病治療論などの知識を活用し、疾患をもつ対象の看護における基礎知識を学習します。解剖生理学、疾病治療の復習は勿論のこと、対象理解を深めるために基礎看護学概論、成人看護学概論の復習をして臨みましょう。看護実践のために必要な思考過程を学びましょう。						
教員の 実務経験	看護師として実務経験 15 年以上を有し講義にあたっている。						

授業科目	老年看護学援助論Ⅰ	年次	1年次	単位	1単位	担当者	吉村安紀美 小宮 欣恵 福岡 博美 長田 美鈴
		期	後期	時間	30 時間		
目的 目標	1. 老年期にある対象の特徴をふまえ、生活リズムの回復、自立生活の拡大、主要徴候に焦点をあてたアセスメントとケアの技法を理解する 2. 外科的治療を受ける老年期にある対象のマネジメントとケアの技法を理解する 3. 感覚機能に障害のある老年期にある対象の看護を理解する						
授業計画	回数	講義内容					備考
	1	高齢者の生活機能を整える看護					講義 資料 など
	2	①日常生活を支える基本的活動					
	3	②食事・食生活					
	4	③排泄					
	5	④清潔					
	6	⑤生活リズム・セクシュアリティ					
	7	⑥コミュニケーション					
	8	⑦社会参加					
	9	健康逸脱からの回復を促す看護 認知機能障害のある高齢者の看護					
	10	エンドオブライフケア ①エンドオブライフケアの概念 ②「生ききる」ことを支えるケア ③意思決定への支援 ④末期段階に求められる援助					
	11	生活・療養の場における看護 ①高齢者とヘルスプロモーション ②保健医療福祉施設および居住施設における看護 ③治療・介護を必要とする高齢者を含む家族看護					
	12	健康逸脱からの回復を促す看護 ①症候のアセスメントと看護 ②身体疾患のある高齢者の看護					
	13	治療を必要とする高齢者の看護 ①検査を受ける高齢者の看護 ②薬物療法を受ける高齢者の看護					
	14	③手術を受ける高齢者の看護 ④入院治療を受ける高齢者の看護					
	15						
評価方法	終講試験、学習態度						
テキスト	老年看護学(医学書院)						
参考図書	国民衛生の動向(厚生労働統計協会)						
Message	老年期の特徴を事前学習し、老年期にある人を生活の視点か捉え看護を考える時間にしましょう。						
教員の 実務経験	各々、看護師として15年以上の経験を有し講義にあたっている。						

授 業 科 目	老年看護学援助論Ⅱ	年 次	1 年次	単 位	1 単位	担 当 者	大庭未央 他
			後期	時 間	30 時間		
目 的 目 標	1. 老年期にある対象の特徴をふまえ、生活機能の観点から看護過程が展開できる。 2. 自立した生活を維持するための具体的な方法が理解できる						
授 業 計 画	回数	講 義 内 容					備 考
	1	リハビリテーションとは PT・OT・STについて					講義
	2	杖、松葉杖の使い方					演習
	3	車いすの使用方法、自操について					
	4	MMT・ROMIについて					
	5	リハビリテーションまとめ					
	6	レクリエーションとは ・レクリエーションの由来と目的					
	7	レクリエーション実演 ・導入、展開、整理の考え方					
	8	レクリエーション実技 グループワーク発表					グループワーク
	9	レクリエーション実技 グループワーク発表					
	10	レクリエーション実技 グループワーク発表 講義(まとめ)					
	11	事例展開 ①老年期の発達課題と特徴 ②老年期アセスメントの視点とポイント					講義
	12	事例紹介 ①グループワークの計画立案 ②情報の整理と疾患の理解					グループワーク
	13	グループワーク ①アセスメントの整理 ②関連図作成					
	14	グループワーク ①アセスメント・関連図修正 ②介入策					
	15	介入策に基づくロールプレイングとまとめ					
評価方法	終講試験・提出物・グループワーク成果						
テキスト	老年看護学(医学書院)						
参考図書	看護診断ハンドブック(医学書院)、臨床検査データの本、今日の治療薬など						
Message	基礎看護学実習、領域別実習に向けて高齢者にとってのリハビリテーションとレクリエーションのもつ意味を考える時間にしましょう。 老年期の発達段階・発達課題に着目し、これまでの既習知識と合わせながら事例展開に取り組みましょう。						
教員の 実務経験	看護師、理学療法師、作業療法師として 10 年以上の経験を有し講義にあたっている。						

授業科目		小児看護学援助論Ⅱ (疾病・症状の理解、事例展開)	年次	1 年次	単位	1 単位	担当者	川島 実 (疾患) 小川 里予 (事例)								
				後期	時間	3 0 時間										
目的 目標		1. 小児に出現しやすい疾病・症状について理解する。 2. 健康障害を持つ小児とその家族を統合的に捉え、成長発達を踏まえた、看護過程の展開を理解する。 3. 発達段階、健康障害の特徴に応じた子どもとその家族に必要な看護援助について考えられる														
授業計画	回数	講義内容					備考									
	1	・第 1 章 染色体異常・胎内環境により発症する先天異常 ・第 2 章 新生児の疾患 ・第 13 章 神経疾患 ・第 9 章 消化器疾患 ・第 12 章 腎・泌尿器および生殖器疾患 ・第 18 章 精神疾患 ・第 3 章 代謝性疾患・第 4 章 内分泌疾患 ・第 5 章 免疫疾患・アレルギー性疾患・リウマチ性疾患 ・第 6 章 感染症・第 7 章 呼吸器疾患 ・第 8 章 循環器疾患 ・第 11 章 悪性新生物 ・第 14 章 運動器疾患 ・第 15 章 皮膚疾患 ・第 16 章 眼疾患 ・第 17 章 耳鼻咽喉疾患 ・第 19 章 事故・外傷 ・小児の発達課題と特徴 ・小児のアセスメントの視点とポイント ・事例の紹介 (情報の整理と疾患の理解) ・アセスメントの整理と関連図 ・介入策の立案とまとめ					グループワーク グループワーク									
	2															
	3															
	4															
	5															
	6															
	7															
	8															
	9															
	1 0															
	1 1															
	1 2															
	1 3															
	1 4															
	1 5															
	評価方法								筆記試験・提出物 100 点満点							
	テキスト								系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児臨床看護各論 (医学書院)							
参考図書		看護診断ハンドブック (医学書院) 臨床検査データの本 今日の治療薬など														
message		小児の各疾患の病態・症状・診断・治療などより新しい医療情報を学ぶことで、看護の基盤の充実を図り、事例を通してアセスメント能力をつけられるようにしましょう。														
教員の 実務経験		川島 実 (疾患): 医師として実務経験を 20 年有し講義にあたっている。 小川 里予 (事例): 看護師として実務経験 15 年以上及び専任教員として 10 年を有し講義にあたっている。														

授業科目	母性看護学援助論Ⅰ (妊婦・産婦・褥婦・新生児の理解)	年次	1 年次 前期～後期	単位 時間	1 単位 30 時間	担当者	田中 科 大塚洋子
目的 目標	正常に経過する妊婦、産婦、褥婦および新生児の理解とそれらを支える看護を理解する。						
授業計画	回数	講義内容				備考	
	1	1. 子どもを産み育てることと看護を学ぶにあたって 2. リプロダクティブヘルス 遺伝相談 不妊治療				講義	
	2	1. 妊娠期における看護 妊娠期の身体的特性、妊娠期の心理的・社会的特性					
	3	1. 妊婦と胎児のアセスメント 妊娠期の検査、健康状態の評価					
	4	1. マイナートラブル、日常生活について					
	5	1. 妊婦と家族の看護 親になるための準備教育 2. レオポルド触診法、					
	6	1. 分娩の要素 胎児心拍モニター					
	7	1. 分娩の経過 産婦、胎児、家族のアセスメント					
	8	1. 産婦と家族の看護					
	9	1. 新生児期の看護 新生児の生理 子宮外適応生活					
	10	1. 新生児期の看護 出生直後～退院まで					
	11	1. 産褥期の看護 産褥経過、褥婦のアセスメント					
	12	1. 褥婦と家族の看護					
	13	1. 演習：沐浴、妊婦体験、				演習	
	14	新生児の身体測定、新生児のバイタルサイン測定				演習：	
	15	終講試験・まとめ				筆記試験	
評価方法	筆記試験 100 点満点						
テキスト	1) 森恵美：母性看護学（2）母性看護学各論，医学書院，2019. 2) 北川真理子・谷口千絵編：看護実践のための根拠がわかる母性看護技術，メジカルフレンド社，2018.						
参考図書	適宜資料配布あり						
message	実習に活かせるために、根拠を理解して技術を習得しましょう。 演習により、技術の習得を確実にして下さい。						
教員の 実務経験	看護師及び助産師として実務経験を 15 年以上有し講義にあたっている						

授業科目	母性看護学援助論Ⅱ (妊婦・産婦・褥婦・新生児の異常と看護、事例展開)		年次	1 年次	単位	1 単位	担当者	田 中 科 大塚 洋子 菊池 明子
				後期	時間	30 時間		
目的 目標	妊娠・分娩・産褥経過中にみられる異常、妊産褥婦および胎児・新生児におこる問題について理解し、健康状態のアセスメントと看護について学ぶ。							
授業計画	回数	講義内容					備考	
	1	妊娠の異常と看護 ハイリスク妊娠、感染症、妊娠疾患					講義	
	2	多胎妊娠 異所性妊娠 妊娠持続期間の異常 胎児と付属物の異常（妊娠期）						
	3	分娩の異常 産道・娩出力の異常 胎児と付属物の異常（分娩期）						
	4	胎児機能不全 異常分娩時の産婦の看護						
	5	分娩第 3 期および分娩直後の異常 異常出血 分娩時の損傷 異常出血時の看護						
	6	産科処置と手術 胎盤娩出の異常						
	7	新生児の異常と看護 新生児仮死と呼吸障害 低出生体重児 分娩外傷						
	8	高ビリルビン血症 ビタミン K 欠乏症 産褥の異常と看護 子宮復古不全 産褥期の発熱						
	9	乳房トラブル 精神障害 産褥のアセスメント						
	10	筆記試験・まとめ						
	11	1. ヘルスプロモーションの考え方を理解する。 2. 事例をもとに妊娠期、分娩期のアセスメントをする。					筆記試験	
	12	1. 事例をもとに褥婦のアセスメントをする。					事例展開 グループワーク	
	13	1. 事例をもとに褥婦のアセスメントをする。						
	14	1. 事例をもとに褥婦に必要な看護を考える。						
15	1. 事例をもとに褥婦に必要な看護を考える。							
評価方法	100 点満点(内訳 異常編：筆記試験 70 点満点、事例展開：30 点満点) 筆記試験や個人提出物、グループワークの参加等で評価							
テキスト	1) 森恵美：母性看護学（1）母性看護学概論，医学書院，2019. 2) 森恵美：母性看護学（2）母性看護学各論，医学書院，2019. 3) 北川真理子・谷口千絵編：看護実践のための根拠がわかる母性看護技術，メジカルフレンド社，2018. 4) リンダ J.カルペニート：看護診断ハンドブック，医学書院.							
参考図書	適宜資料配布 1) 日本助産診断・実践研究会編著，マタニティ診断ガイドブック，医学書院. 2) 太田操編著，ウェルネス看護診断にもとづく母性看護過程，医歯薬出版.							
message	母性看護学の正常を踏まえて、異常を理解するように学習を勧めていきましょう。事例展開に於いては、正常に経過している褥婦のアセスメントや看護について学習しましょう。							
教員の 実務経験	看護師及び助産師として実務経験を 15 年以上有し講義にあたっている。							

授業科目		精神看護学概論	1 年次 前～後期	1 単位 30 時間	担当者	上安稔子
学 習 目 標		1 人間の発達段階と発達課題をふまえ、精神機能を健康の視点から理解する。 2 心の健康について重要となる概念と、精神看護の特徴を理解する。 3 精神保健福祉の歴史的変遷と関連法規について理解する。				
授 業 計 画	回数	講 義 内 容				備 考
	1	精神看護学を学ぶ前に				講義、ワーク
	2	第1章：精神看護学で学ぶこと 1.「心のケア」と現代社会 2.精神看護学とその課題				講義
	3	3.精神障害の体験 4.精神看護学の基本的な考え方				講義 体験
	4	第2章：精神保健の考え方 1.精神の健康とは 2.精神障害のとらえ方				講義
	5	3.ストレスと健康の危機				講義
	6	第3章：人間の心のはたらきとパーソナリティ 1.人間の心の諸活動				講義
	7	2.心のしくみと人格の発達				講義
	8	第4章：関係のなかの人間 1.全体としての家族 2.人間と集団				講義
	9 10	DVD 鑑賞 『人生ここにあり』 「施設からの開放」「ノーマライゼーション」「社会復帰」「自己決定」の 視点で映画を観た感想とグループディスカッション				DVD 鑑賞 グループワーク
	11	第7章：社会のなかの精神障害 1.精神障害と治療の歴史 2.日本における精神医学・精神医療の流れ				講義
	12	終章：看護における感情労働と看護師のメンタルヘルス				講義
	13/14	精神看護学概論での学びをラベルワークしよう！				グループワーク
	15	終講試験と解説				
評価方法		筆記試験 提出物				
テキスト		医学書院 精神看護学 1 精神看護の基礎 、精神看護学 2 精神看護の展開				
参考図書		田中美恵子編著:精神看護学～学生一患者のストーリーで綴る実習展開 医歯薬出版 武井麻子:精神看護学ノート 医学書院				
Message		精神看護学は、こころの健康問題を持った人が回復を体験し、その人らしさを取り戻して生活していくことを、看護職として支援する方法を考え実践する分野です。うつ病や統合失調症といったこころに病気のある人は、現在、日本でも増え続けています。こころの病気は現在の日本社会にとって、喫緊の問題の1つと言えます。看護が担う役割も重要ですのでしっかり学んでいきましょう。				
教員の 実務経験		看護師の実務経験 8 年及び専任教員 20 年以上を有し講義にあたっている。				

授業科目		精神看護学援助論Ⅰ	1 年次	1 単位	担当者	上川比呂勝 上安稔子
			後期	30 時間		
学 習 目 標		1. 精神障害の病態と症状、診断、治療について理解する 2. 事例を通して全体像とセルフケア能力におよぼす影響を理解し、看護計画が立案できる 3. 状況設定による看護場面から、対応のあり方を考えることができる				
授 業 計 画	回数	講 義 内 容				備 考
	1	Ⅰ. 精神症状論と状態像 1.思考の障害				講義
	2	2.感情の障害 3.意欲の障害 4.知覚の障害				
	3	5.意識の障害 6.記憶の障害 7.局在症状				
	4	Ⅱ. 精神障害の診断と分類 1.統合失調症①				
	5	2.統合失調症②				
	6	2.気分障害				
	7	3.神経症性障害、ストレス関連障害、身体表現性障害、生理的障害、 身体的要因に関連した行動症候群				
	8	4.パーソナリティ障害 5.精神作用物質使用による精神および行動の障害				
	9	6.てんかん 7.発達障害				
	10	8.認知症				
	11	Ⅲ. 精神看護学事例展開 1.セルフケア理論について 2.演習について 3.事例提示				講義
	12	4.全体像の理解①（基本的条件付け－発達の特徴と疾病の特徴）				講義、個人ワーク
	13	5.全体像の理解②（普遍的セルフケア要件、関連図）				講義、個人ワーク
	14	6.必要な看護を考える				講義、個人ワーク
	15	7.看護場面とその対応				グループワーク
評価方法		筆記試験 提出物				
テキスト		医学書院 精神看護学 1 精神看護の基礎 、精神看護学 2 精神看護の展開				
参考図書		適宜資料を配布します				
Message		- 事前学習として予習をして授業に臨むこと - 精神看護の実践は、人間の尊厳を基盤に、精神障害によって日常生活に支障をきたした人々に対して、精神看護学の知識と技術を用いて、可能な限りの精神的健康の回復をめざし、その人が望む生活をその人らしく生き生きと送れるように援助することです。これらことを演習で体験し、対象を理解する視点、看護の考え方や実践の参考になれば、と考えています。みなさん、主体的に学習していきましょう。				
教員の 実務経験		上川比呂勝（疾患）：医師の実務経験を 15 年以上有し講義にあたっている。 上安稔子(事例)：看護師の実務経験 8 年及び専任教員 20 年以上を有し講義にあたっている。				

授業科目	精神看護学援助論Ⅱ	1 年次	1 単位	担当者	上中秀一 岡橋麻希 酒井真紀 他
		後期	30 時間		
学 習 目 標	1.コミュニケーション技術を通して自己理解の必要性と治療的関係について理解する 2.精神障害者への日常生活行動の援助について理解する 3.精神症状に対する治療を踏まえ、看護的対応を理解する 4.専門的精神看護の活動について、視野を広げる				
授 業 計 画	回数	講 義 内 容			備 考
	1	第 8 章 ケアの人間関係 1.ケアの前提 2.ケアの原則 3.ケアの方法			講義
	2	4.関係をアセスメントする①（プロセスレコードとは、書き方、読み方）			
	3	4.関係をアセスメントする②(プロセスレコードを実際に記述する)			
	4	5.患者－看護師関係における感情体験			
	5	第 9 章 回復を助ける 1.精神科におけるリハビリテーション 2.回復を支えるプログラム			
	6	3.入院治療の目的と意味 4.治療的環境をつくる			
	7	第 11 章身体をケアする 1.精神科における身体ケア 2.身体にあらわれる心の痛み			
	8	3.精神科の治療と身体ケア 4.身体合併症			
	9	5.身体的ケアの実際 6.睡眠の援助 7.入院時のアセスメント			
	10	第 10 章 安全をまもる 1.安全とは、自立とは 2.決めつけない見方、関わり方 3.安全な療養環境とは			
	11	4.さまざまな制限(隔離、拘束) 5.災害時の対応			
	12	第 13 章 地域における精神保健と精神看護 1.精神障害をもちながら地域で暮らす人々を支える 2.社会資源・サービス 3.利用者・支援者の心得			
	13	4.地域での看護の実際 5.事例検討			
	14	6.学校における精神保健と精神看護 7.職場における精神保健と精神看護 8.災害と精神看護			
	15	第 14 章 リエゾン精神看護 終講試験			演習
評価方法	筆記試験				
テキスト	医学書院 精神看護学 2 精神看護の展開				
参考図書	適宜資料を配布します				
Message	患者理解とこころのケアの大切さを理解するために、看護現場のリアリティを伝えられるよう、コ・メディカルそれぞれの立場から教授します。概論や疾患で習ったことを振り返り授業に臨んでください。				
教員の 実務経験	実務経験は看護師・作業療法・精神保健福祉士において 5 年以上を有し講義にあたっている。				

授業科目	在宅看護概論	年次	1年次	単位	1単位	担当者	谷川 百合子
			前期～後期	時間	30 時間		
授業概要 学生の 取り組み	在宅看護が必要とされている社会的背景の変遷と関連付けて、地域で生活しながら療養する人々とその家族の看護を学ぶ。在宅療養者の特徴、主な健康障害、看護援助とその提供機関、家族支援方法、社会資源の活用方法、他職種との連携と協働、ケアマネジメント、及び社会保障制度、療養者の権利擁護などの学習を通して在宅看護の特徴及び病棟看護との違いを理解する。						
授 業 計 画	回数	講 義 内 容					備 考
	1	◇ 在宅看護を学ぶにあたって ◇ 在宅看護でこころがけること					講義
	2	➤ 在宅看護の目的と機能 ◇ 在宅看護の目ざすもの・在宅看護における看護師の役割と機能 ◇ 地域包括ケアシステムと地域連携クリティカルパス、在宅療養移行支援 ◇ 在宅看護における看護師の倫理					講義
	3	➤ 在宅療養の対象者 ◇ 対象者の特徴					講義 グループワーク
	4	➤ 在宅看護の支援（施設と在宅を結ぶ看護）					講義
	5	◇ 在宅看護の提供方法 ◇ 療養の場の移行（合同カンファレンス）					
	6	➤ 在宅看護の対象者としての家族 ◇ 家族システムの特徴・家族アセスメント ◇ 家族への支援					講義 ロールプレイ
	7	➤ 在宅看護にかかわる法令・制度とその活用（在宅看護のしくみ）					講義
	8	◇ 訪問看護制度の発展経緯 ◇ 介護保険制度・訪問看護の制度					
	9	➤ 訪問看護ステーションをつくろう					講義
	10	◇ 訪問看護ステーションに関する規定					
	11	◇ ケアマネジメントと社会資源の活用・地域における他職種連携					
	12	◇ 看護過程展開のポイント					
	13	➤ 在宅看護における安全性の確保 ◇ 療養上のリスクマネジメント ◇ 災害に対する準備と対応					講義
	14	➤ 暮らしを支える在宅看護（エンドオブライフ・ケアと暮らしの保健室） ➤ 在宅看護の課題と方向性					講義 グループワーク
15	終講試験 解説						
評価方法	出席状況と授業への取り組み、課題、試験 100 点満点						
テキスト	系統看護学講座 統合分野 在宅看護論 医学書院						
参考図書	ナーシング・グラフィカ 在宅看護論① 地域療養を支えるケア 臺有桂 石田千絵 山下留理子著 メディカ出版						
Message	在宅看護を訪問看護活動のみで捉えるのではなく生活者としての捉え方とアプローチの方法や、継続看護についても学習しその支援や看護の継続性について考える時間にしていきます。人々の日々の生活の成り立ちを健康状態や地域社会の繋がりの中で理解する事が必要となります。そのため学生は、自身の日常生活、社会情勢の変化、保健、医療、福祉、等の諸制度に関心を持ってほしい。						
教員の 実務経験	看護師の実務経験 11 年、6 年間の在宅看護論実習指導経験を重ね。専任教員としての実務経験を 40 年有し講義にあたっている。						

授業科目		在宅看護援助論Ⅰ (訪問看護の実際)		1 年次	1 単位	担当者	高山雅子
				後期	30 時間		
目的・目標		様々な事例展開を通して在宅看護の特徴が理解できる。					
授 業 計 画	回数	講 義 内 容					備考
	1.	価値観の多様性の理解（クルーザ物語） 7 章 A、在宅看護介入時期別の特徴 ①在宅療養準備期（退院前） 事例 A 氏・B 氏					講義
	2.	7 章 A、在宅看護介入時期別の特徴 					

授業科目		在宅看護援助論Ⅱ (在宅看護技術、事例展開)		1 年次	1 単位	担当者	平井由加里 谷川百合子
				後期	30 時間		
目的 目標		訪問看護技術の基本技術と療養する対象のアセスメントを基に在宅における生活支援技術が理解できる。 事例を用いて終末期の療養者における看護過程の展開ができる。					
授 業 計 画	回数	講 義 内 容					備考
	1.	6 章 在宅看護技術 ①訪問看護って何？ 訪問看護の DVD 「こんにちは 訪問看護です」					講義 DVD
	2.	1、食生活の援助 トロミ剤使用の実習：サンプル食品の活用					講義 演習
	3.	1、清潔の支援 洗髪の実習 2、移動の実習					講義 演習：実習室
	4.	1、フットケア、 2、HOT、呼吸リハビリ、在宅人工呼吸器、					講義
	5.	1、HOT、在宅人工呼吸器の実際を学ぶ 業者の方に来校頂き、実際の器械について学ぶ。					業者による説明
	6.	1、在宅の褥瘡管理について					講義
	7.	1、排泄支援について ストーマ管理、膀胱留置カテーテルの管理					講義
	8.	1、経管栄養について 2、在宅輸液療法について					講義
	9.	1、疼痛管理について					講義
	10	終講試験 解説					試験
	11	在宅看護展開の視点、全体像をイメージ出来るように事例紹介をする。					講義
	12	看護アセスメント					個人学習
	13	関連図・看護目標					個人学習
	14	看護診断について「ヘルスプロモーション」の視点で考える。					個人学習
15	在宅看護のまとめと修正					講義	
評価方法		筆記試験・提出物・授業参加度					
テキスト		看護学講座 在宅分野 在宅看護論 河原加代子代表著 医学書院 看護診断ハンドブック第 11 版, 2018, 医学書院.					
参考図書		ナーシング・グラフィカ 在宅看護論① 在宅療養を支える技術 メディカ出版、 適宜資料配布					
Message		在宅看護に必要な援助方法をしっかり学び臨地実習に活かして下さい。					
教員の 実務経験		各々看護師として実務経験を 10 年以上有し講義にあたっている。					

授業科目	看護の統合と実践論概論 (看護管理・看護研究)		1 年次～2 年次	1 単位	担当者	木下久美子 岸 さゆり
			後期～前期	30 時間		
目 的 目 標	目的：1. 看護をマネジメントする看護管理の基本的な理解を深める。 2. 研究的態度を身につけ自己の看護観を明確にする。 目標：1. 人的資源、物的資源、財的資源を活用・維持できるマネジメントを理解する。 2. 生命倫理・医療倫理から派生した看護倫理と法および諸制度を理解する。 3. 組織や医療安全管理、チーム医療についてのマネジメントを理解する。 4. ケーススタディの意義を理解し研究方法について学ぶ。 5. 研究的視点を持って事象を分析し、援助の本質と看護師の役割を理解する。 6. 研究活動が専門職業人を育て、専門性を磨く鍵であることが理解できる。					
授 業 計 画	回数	講 義 内 容				備 考
	1	1. 授業ガイダンス				
	2	1. 看護とマネジメント				
	3	1. 看護ケアのマネジメント				
	4	1. 看護サービスのマネジメント				
	5	1. 看護を取り巻く諸制度				
	6	1. マネジメントに必要な知識と技術①				
	7	1. マネジメントに必要な知識と技術②				
	8	1. 看護研究とは(ケーススタディとは)				
	9	1. 看護研究のプロセス				
	10	1. 文献検索とクリティーク				
	11	1. 看護研究のデザイン				
	12	1. データの分析と尺度開発				
	13	1. 草稿・原著の書き方 集録の書き方				
	14	1. 看護研究発表の実際(効果的なプレゼンテーション)				
15	1. 講評、発表会の運営					
評価方法	筆記試験 提出物 出席状況					
テキスト	1)上泉和子, 小山秀夫, 他：系統看護学講座 統合分野 看護の統合と実践 [1] 看護管理. 医学書院, 2013. 1)上野栄一, 出口洋二, 一ノ山隆司：楽しくなる看護研究. メヂカルフレンド社, 2012.					
参考図書	川村治子 医療安全ワークブック 医学書院、杉山良子 危険予知トレーニング メディカ 東京医科大学病院看護部安全対策委員会 こうすればできる安全な看護 アンファミエ					
Message	看護管理・看護研究は、看護の発展と質の向上を目指した、既習学習の集大成ですから予習・復習をして臨みましょう。また、問題解決意識をもち医療に関する新聞記事やニュースに関心を持ち、その事例の問題点を自分なりに考え文献を納得いくまで探してみましょう。					
教員の 実務経験	木下久美子(看護管理)：看護師として実務経験を 25 年以上、看護管理者としても実績を有している。 岸 さゆり(看護研究)：看護師及び専任教員として 30 年の実績を有している。					

授業科目	看護の統合と実践論Ⅰ (災害看護・国際看護)	講師名	木下久美子・鈴木玲子・井上博 高田勝子・岸 さゆり		
開講時期	1年次・2年次	単 位	1 単位	時 間	3 0 時間
目的 災害看護・国際看護について基本的な理解を深める。					
目標 1. 災害看護の基礎的な知識を理解する。 2. 災害看護の実際を理解する。 3. 国際看護の基礎的な知識を理解する。 4. 国際看護の実際を理解する。					
授 業 計 画	回数	内 容			講義方法
	1 2	災害の基礎知識 災害医療実施のための体系的アプローチ			D V D ・ 講 義
	3	災害看護の基礎知識 病院の災害看護の実際			講 義
	4 5	B L S			演 習 スポーツウェア
	6 7	トリアージについて			講義・演習
	8 9	国際看護の概念，異文化看護 国際協力機関の取り組み，ODAについて			筆記試験 講義・D V D
	10 11	リプロダクティブヘルス，母子保健， 女性生殖器切除についてグループワーク 感染症，H I V /エイズ対策，貧困，栄養問題，衛生 海外の医療施設			講義・D V D
	12 13	外国人の現状，E P A制度，メディカルツーリズム， 英国・米国の看護，検疫官の仕事，			講義・D V D
	1 4	海外で働く，英国で看護師になる，難民問題，世界の人口 海外の医療施設			D V D ・ G W
	1 5	終講試験			
評価方法		災害看護 5 0 点(筆記試験・提出物・演習参加度) 国際看護 5 0 点(筆記試験)			
テキスト		日本赤十字社事業局看護部編集：系統看護学講座 統合分野 「災害看護学・国際看護学 看護の統合と実践③」，医学書院 守本とも子監著：これからの国際看護学，P I L A R PRESS ピラールプレス			
参考文献		D V D 「被災病院における災害直後の看護活動、入院患者と職員の安全を守るための 情報・判断・行動」，日経映像 「明日へ 果てなき苦闘 巨大津波医師たちの記録」，NHKスペシャル 「国際看護を学ぶ意義」「国際機関と世界のつながり」 「世界を視野に入れた看護の現場」 「世界で活躍する看護のプロフェッショナルたち」，ビデオ・バック・ニッポン			
Message		近年、わが国において大きな被害をもたらす災害が増え、その防災対策や救護・看護への期待は大きく、災害看護を通して国際協力を行う等グローバルな視点で看護を考えることが重要視されてきた。非日常のできごとである災害や国際看護について関心を持つため、新聞記事やニュースを通し、その事例の問題点を自分なりに考えてみましょう。			
教員の 実務経験		木下久美子・鈴木玲子・高田勝子・岸さゆり：各々が看護師として〇〇年の実務経験を有している。 井上博（BLS）：救急救命士として7年の実務経験を有している			

授業科目	看護の統合と実践論Ⅱ 医療安全	1 年次	1 単位	担当者	上安 稔子
		後期	15 時間		
目的 目標	1 医療事故の伴う看護師の法的責任について理解できる 2 医療事故の発生要因とヒューマンエラーの考え方を活かした事故防止策について理解する 3 演習をとおしてセルフモニタリングを働かせ、リスク感性を養う				
授 業 計 画	回数	講 義 内 容			備 考
	1	Ⅰ. 医療安全と看護の理念 Ⅱ. 看護職の法的規定と医療安全 Ⅲ. 医療事故の定義と分類			講義
	2	Ⅳ. 事故の構造と対策 1. ヒューマンエラー 1) 事故発生のメカニズム 2) 人間の特性 2. 事故分析 1) 事故の構造 2) 事故分析の目的 3) 具体的な分析方法 3. 事故対策 1) リスクマネジメント 2) セルフモニタリング			講義
	3	Ⅴ. 看護における医療事故と安全対策 1. 診療の補助業務に伴う事故防止 1) 与薬に関する事故対策 2) チューブ管理に関する事故対策 2. 療養上の世話における事故防止 1) 療養上の世話における 2 群の事故 2) 療養上の世話に関する事故防止 3) 転倒・転落に関する事故対策 4) 誤嚥に関する事故対策 3. 業務領域をこえて共通する間違いと発生要因			講義 DVD
	4	Ⅵ. 看護業務上の危険と防止策 Ⅶ. 医療安全とコミュニケーション			講義
	5	Ⅷ. 危険予知トレーニング演習 1. KYT 基礎 4 ラウンド法			講義
	6	状況把握→本質追求→対立樹立→目標設定→発表			グループワーク
	7	Ⅸ. 実習における安全 1. 実習における事故の法的責任と補償 2. 実習中の事故予防および事故発生時の学生の対応 Ⅹ. 事例で考えよう!			講義 グループワーク
評価方法	筆記試験 提出物 出席状況				
テキスト	ナースンググラフィカ 医療安全 メディカ出版				
参考図書	川村治子 医療安全ワークブック 医学書院 、 杉山良子 危険予知トレーニング メディカ 東京医科大学病院看護部安全対策委員会 こうすればできる安全な看護 アンファミエ				
Message	この学習をとおしてみなさんのリスク感性が高められ、質の高い看護が提供できるよう個々の責任において自己研鑽を行うスキルをもつことができるようになればいいと思っています。がんばりましょう!				
教員の 実務経験	看護師の実務経験 8 年及び専任教員 20 年以上を有している。				

授業科目		看護の統合と実践論Ⅲ	2 年次 後期	1 単位 30 時間	担当者	牧瀬真由美 石田 浩子
目的 目標		目的：既習の知識や技術を統合して、対象の状況に応じた看護実践能力を身につける。 目標 1．複数患者の疾患を理解し、優先順位を考えた看護計画が立案できる。 2．提示された看護場面から、看護実践中に生じる多重課題に対応できる。 3．客観的能力試験（OSCE）を通し、自己の対応能力と課題が考えられる。 4．看護師に求められる実践能力を理解し、統合実習における自己の課題を明確にできる。				
授 業 計 画	回数	講義内容				備考
	1	看護管理の実際				講義 個人ワーク グループワーク
	2	急変対応				
	3	臨床で求められる看護実践能力とは				
	4	多重課題とは				
	5	受け持ち患者の情報整理 1 日の行動計画作成				
	6	①受け持ち患者の状態 ②関連図 ③看護計画 ④メンバー実習計画表				
	7	グループ学習				
	8	事例から考えられることをグループで想定し対応を考える→実践する				
	9					
	10					
	11	OSCE				
	12	OSCE				
	13	デブリーフィング（振り返り）				
	14	リフレクション				
15	リフレクション					
評価方法	客観的能力試験（OSCE）、リフレクション、最終レポート、提出物の期限、出席状況 最終レポートについて、テーマ「自己の課題を克服するための抱負～統合実習に向けて～」書式は A4 横書き、表紙は付けずに 1400～1600 字（文字数明記）一枚にまとめる。 翌登校日 9 時まで提出					
Message	今まで培ってきた知識と技術を統合して、設定された看護場面での対象の看護について学習します。さらに多重課題に対してどう判断して看護を展開するかを客観的臨床能力試験（OSCE）で評価していきます。緊張感の高い試験ですが、看護師に求められている能力を再度振り返り、学んでいきましょう。					
教員の 実務経験	牧瀬真由美：看護師として実務経験 7 年及び専任教員として 9 年経験を有している。 石田 浩子：看護師として実務経験 25 年を有し、認定看護管理者教育コースサードレベル課程を終了している。					

平成30年度 栗岡学園 自己点検・評価結果

平成19年12月に改正された学校教育法に基づき今年度の自己点検・自己評価を以下のとおり実施する。
記入項目は「教育」、「施設・設備」、「学生サービス」の3テーマに関する項目とする。

【記入方法】

「教育」、「施設・設備」、「学生サービス」の項目ごとに

- 1) 学校の現状がどのようになっているか
- 2) どのような良好な点や問題点があるか
- 3) 現状を踏まえた5段階による自己評価
- 4) 今後、どのようにして向上・改善を図っていく方針であるかを簡明にご記入する。自己評価は数字に○を付ける。

学 校 名：学校法人栗岡学園 四条畷看護専門学校

回答責任者：副学校長、教務主任、事務主任、事務員

平成30年度 栗岡学園 学校関係者・評価結果

【学校関係者評価委員会】 令和2年2月25日開催

学校関係者評価委員会を開催し、自己点検・自己評価（H30年度実施したもの）を以下のとおり評価頂く。

学校関係者評価委員：委員長1名 委員6名

- ・ 自己点検・自己評価 平成30年度の結果と取り組み（報告）
- ・ 質疑応答・評価

学 校 名：学校法人栗岡学園 四条畷看護専門学校

回答出席者：副学校長、教務主任、事務主任、事務員

教育分野 (以下に点検・評価する教育分野の番号を○で囲んでください。)

1 リハビリ

2 看護

1 教 育

項 目	どのような現状ですか	良好な点あるいは問題点	5段階の自己評価	今後の向上・改善策	学校関係者評価
1. カリキュラムは貴校の教育目標をどのように反映していますか	・教育理念・教育目的・教育目標に基づき学年別到達目標を明示し、カリキュラムに反映させている。授業科目については、科目目標と授業内容を示し、学生の学習指針となるように分かりやすく明記している。 ・入学式の後、新入生の保護者を対象とした教育計画の説明会をもち、学生生活全般に繋げた理解と協力が得られるように努めた。	・教育目標に基づく学年別到達目標は、年次の初めに学生に伝えている。又教員にも周知されている。講義、学生指導の際に出た問題点を教務会議で検討し、教員と学生間で共有しながら目標達成度を確認している。 ・カリキュラムの考え方については、見直しの時期に来ていると思う。カリキュラム改正に向け、本校のカリキュラム委員会を中心に検討会を2回持ったが、本校の特徴を出すまでには至らなかった。	5 ④ 3 2 1 十 ふ 不 ← つ → 十 分 う 分	・看護に対する自己の考えをもち、主体的に看護を探究する姿勢を備えるための教育計画を工夫する。 ・カリキュラム委員会が中心となり、進学課程の特徴と学年別到達目標を評価しながら、教育目標の内容を検討し、カリキュラムデザインを考える。 ・次年度も新入生の保護者を対象とした説明会を計画する。	1教育-9 —基礎学力を上げるため、教材は何を使用してどのような方法で行なっているか？ A:毎年、4校合同の基礎学力テストをおこなっているが、下位10名程度を対象に、中学レベルの基礎問題集(中学ドリル)を使用し、お昼休みを利用し、本人の自主性を尊重しながら特別講義を行なっている。 入学前課題(スタートアップ;メディカ出版)を出し、入学後

		・新入生の保護者を対象とした説明会は、遠方の方の参加もしやすく、又積極的な質問も見受けられ、効果的であった。			に提出をさせ、教員がチェックする等している。
2. カリキュラムに卒後の職場のニーズをどのように反映していますか	・実習先が卒業生の就職先である場合、引率教員や臨床指導者会で常に意見を交換し、臨床側のニーズを把握し、必要時カリキュラムに取り入れている。 ・卒業生が来校時、職場のニーズと本校のカリキュラムとの妥当性について情報を得、カリキュラムを見直す機会としている。	・学生は実習時インシデントに気付いた時点でインシデントレポートを書きクラスの投函ボックスに投函する習慣を身につけている。 ・診療の補助に伴う看護技術で吸引・静脈注射・薬液の混入・無菌操作等についても、入職時から即技術が要求される。学内演習の強化が必要。	5 4 ③ 2 1 + ふ 不 ← つ → + 分 う 分	・学生の看護技術習得に効果的なシミュレーション教育法の研修が必要。 ・卒業生や臨床現場との交流や研究会・研修会に参加し、現場のニーズを把握する機会をもつ。	—学生さんのモチベーションを維持するのにどのように工夫されているか？ A: 終了時に卒業証書や粗品を渡す等担任が工夫をしている。特別講義の開催日時も主体性を養うように開かれた勉強の場をもうけている。 1教育-10
3. 授業科目の学年進や時間配分は適切ですか	・時間配分は指定規則を基本としている。1年次 1470 時間、2年次 720 時間配分し、科目の進行は、2年次に集大成するというカリキュラムデザインと各分野の考え方に沿っており妥当と考える。 ・2年課程のためカリキュラムが	・学習の順序性を考えた時間割となっている。 ・講師との調整のため学科進度に多少の変動がある。 ・今年は災害や休講の関係で自己学習時間が講義に替わり、学生の振り替える時間がほとんど取れなかった。	5 4 ③ 2 1 + ふ 不 ← つ → + 分 う 分	科目の振り返りは、家庭における自己学習の習慣化で強化していく。 ・終講試験の時間割りの検討。	—社会人としての基礎力の低下を感じる昨今で、教育の現場では社会人基礎力のチェック表を用いているということですが、更に低下を感じる学生にはどのように指

	過密である。	・科目留年者があり、授業変更時の連絡はスムーズであった。			導しているか？
4. シラバス（授業要項）を作成していますか（内容は適切ですか）	・教育計画に沿ってシラバスを作成しているが、一部シラバスに協力が得られない科目がある。 ・内容は科目目標に沿っており、適切である。	・学生は、シラバスに沿った事前学習は可能であるが、実施している学生は少数である。 ・講師への講義依頼時、科目目標に沿った依頼ができていない科目については協力要請をしていく。	5 4 ③ 2 1 + ふ 不 ← つ → + 分 う 分	・専門学校に期待される授業内容や、学生の学力に応じた授業内容の見直しを各担当分野とカリキュラム委員会で検討する。	A: 個人面接をこまめに行う。具体的な場面設定の中で、相手の迷惑度を共に考える等々ということを繰り返し行なっている。実習時は、知識や技術以前に態度も指導者が丁寧に時間をかけて指導くださる場面もあり、
5. カリキュラムの見直し体制はどのようにしていますか	・学科担当者を中心に課題を見出し、適宜教務会議に諮り学校全体で見直しを図っている。 臨地実習においては、臨床指導者会議の意見（評価）を教務会議で検討し、実習要項に反映させている。	・卒業時に必要な看護実践力の強化を図るため、科目担当者を中心に、講師や、実習指導者、研修会等で得た情報を基に教務会で検討し、見直しを図っている。 ・卒業時の学生アンケートから課題を把握しカリキュラムに反映させている。	5 ④ 3 2 1 + ふ 不 ← つ → + 分 う 分	・一定水準に達しない学生への学習方法や、社会経験の少ない学生の増加に伴い、自己学習の方法や専門職に必要な社会人基礎力育成に向けた取り組みを全教員で強化していく。	更には教員がそれを持ち帰り学校でフィードバックさせている。必要時には保護者も交え、看護職としての社会人基礎力について話しあっている。
6. テキストや教材をどのような基準で採用していますか	・テキストは、本校の科目目標や国家試験出題基準を参考にチェックし、講師の意見や学生の経済的負担	・外部講師には、テキスト使用後にご意見を伺い、次年度に反映させているが、活用できていないテキス	5 ④ 3 2 1 + ふ 不 ← つ → + 分 う 分	・年度末にテキストや教材の意見を集約し教務会議で検討する。 ・基礎学力を補強するテ	評価: 学校の取り組み、成果として、好評価だと思われる。

	を考慮しながら教務会で選定している。 ・学内演習や課題学習に必要な教材を採用している。 ・基礎学力（数学・国語・英語）の低い学生への個別指導を実施。	トもあり検討が必要。 ・不足教材は、関連校と調整しながら随時借用できている。 ・基礎学力アップのための個別補講（数学・国語）は、効果があった。		キストの検討。 ・臨床現場のイメージ化が図れる教材の検討。（次年度より小児・母性の病院実習が中止）	3学生サービス - 1 —学生サービスで、5段階評価の5をつけているが、現状で満足しているか？
7. 目標とする教育効果を踏まえて適切に成績評価を行っていますか	・各科目の成績評価の方法、評価基準については、シラバスにて明記し周知徹底させている。 ・追試・再試・再実習・補習実習の受験資格、単位未修得者の履修方法は学生便覧で明確に示している。 ・卒業認定会議は、学校運営会議にて公平に評価を行っている。 ・入学前の履修認定基準については、学生便覧に明記し、入学後早期に実施している。 ・新入生と保護者には、本校の学科成績基準について「学生便覧」で分かり易く説明した。	・休学者、科目留年者の評価は本人、保護者への説明と確認を基本とし、全ての単位が合格できるように、教務会議では情報の共有をし、学生の不利益が生じないように細心の配慮を払っている。	5 ④ 3 2 1 十 ふ 不 ← つ → 十 分 う 分	・成績評価に係る問題が生じた時は、教務会議で検討し、本人、保護者への説明と同意を徹底する。 ・成績評価基準の説明は、次年度も新入生・保護者を対象に早期に実施。	A:、卒業時の学生アンケート結果を反映させたもので、教員一人一人がこまめに学生と向き合っているかという課題はあると思う。改善の余地はあると考える。 評価: 今後「より一歩すすめるためにはどうしたらいいか」を常に考える事が必要になってくるのではないかと。又、学生の多様性に悩まれているようだが、逆にその課題を解決できれば、学生募集につながる糸口にもなるように思

8. 学生の理解度に応じて授業を柔軟に進めていますか	・入学直後に「人体の機能と働き」の確認テストを実施し、解剖学の理解度の把握と授業のスムーズな導入を目的としている。 ・授業形態はグループワークを多く取り入れ、学生主体の参加型の学習法を取り入れている。	・准看護師として培ってきたキャリアを大切に、幅広い年代の学生が目的意識を持ち、教え合い、学び合い、励まし合いながら、自律的に取り組んでいる。 ・講師は、学生個々の理解度を把握しながら、質問等の発言機会を多く取り入れ、積極的に授業に参加させている。 ・レポート課題を多く取り入れ、問題発見能力の育成に力を入れている。 ・授業研究の一環として授業参観を取り入れたが継続できなかった。	5 ④ 3 2 1 十 ふ 不 ← つ → 十 分 う 分	・個別面接を重視し学生個々に応じた自宅学習の方法を考える。 ・教員間で授業研究を行う。 ・姉妹校共通の学力テストの評価を学生指導に反映させる。	われる。 まず行動してみて、それから考えながら進んでいくことが大切ではないか。 3学生サービス - 6 ーボランティア活動とあるが、例えばどのようなことをしているか？ A: 田原台地域の清掃活動が挙げられる。 今後地域を知るというカリキュラムをスタートさせていく予定で、どんどん地域に出ていく活動を広げていきたい。
9. 学生の学力不足を補うための教育をとくに実施していますか	・入学後、姉妹校共通の基礎学力テストを実施し、学力不足の学生には、補習を実施している。 ・学習と私生活のバランスの取り方を学生と共に考え、予習復習の習慣化と学習ノートづくりを指導実	・学力不足の学生を対象に、国語・数学の補習を実施し学力アップに繋がった。 ・振り返りが可能な学習ノートを学生自身が考案しているが、継続活用までには至っていない。	5 ④ 3 2 1 十 ふ 不 ← つ → 十 分 う 分	・学力不足、授業態度、出欠状況等、指導が必要な学生の支援を重視し、国試対策に繋げていく。	評価: ボランティア活動をもっと周知する必要があるように思われる。

	施している。 ・二年次は国試対策として、チーム編成を行い、学力不足の学生には重点的に個別指導の強化を図っている。 ・看護技術力低下が著しく、放課後個人指導を行っている。 ・入学時の「人体の仕組みと働き」の確認テストから、学力不足の学生には、小テストを繰り返し行い解剖生理学の学習に反映させている。	・技術演習は、基本を忠実に繰り返し指導をしているが、エビデンスに基づく看護実践までには至っていない。 ・小テストを反復したことにより、おおよその学生は、学習理解に繋がった。 ・国試対策として、学力不足の学生に対して、学習指導（サポート）を行い学力向上に繋がった。			—卒後の研修会への取り組みをするために、在学中の学生への意識付けはどのようにしているか？ A:看護研究や臨地実習を通し意識付けを行い、卒業後に同窓会主催の研修会があることを周知させている。
10. マナー（喫煙指導などを含む）やしつけの教育や指導を行っていますか	・全館禁煙。 ・入学時より便覧に則り、専門職業人としてふさわしい品性を備えるための指導を実施。 ・一年次後期の実習開始時期より、社会人基礎力チェック表を用い、自己の振り返りを行っている。	・指導が必要な学生は、教務会で情報の共有を行い、全教員が同じ視点で指導を行った。 ・個別に繰り返し指導することで公私の区別がつくようになった学生もいる。	5 ④ 3 2 1 十 ふ 不 ← つ → 十 分 う 分	・学生の自尊心を尊重した指導法を考えていく。 ・入学当初より社会人基礎力チェック表を活用する。	

11. 教育技術（教育方法）の研修・研究を実施していますか	・教員は年2回（公費）以上、研修会・講演会に参加し、教育技術の向上に努めている。 ・教員相互の授業参観を実施（1回）し授業研究を行った。 ・教員全員が実習期間中実習場に赴き、研修の機会としている。 ・演習形式の講義を中心に授業案の検討を実施している。	・授業参観は授業改善に向けた第1歩の取り組みであったが、継続できなかった。 ・実習引率は、教育研修として、大きな効果がある。 ・他教科のグループ演習に参加し、研修の機会としている。 ・教務会において、研修会・研究会の伝達講習を行い全員で学びの共有を行っている	5 4 ③ 2 1 十 ふ 不 ← つ → 十 分 う 分	・教員全員が年2回以上研修・研究会に参加する。 ・授業改善に向けて、本校のみならず他校にも出向き授業参観の機会をもち、自身の授業観を吟味しながら授業を創っていく。	
12. 学生による授業評価を実施し教育改善に反映していますか	・教員、講師の了承の下、科目終了時、関連の四校共通の評価表を用いて授業評価を行っている。集計後講師にフィードバックしカリキュラムに反映させている。 ・卒業時に学生アンケートを実施し、教育改善に反映させている。	・講義アンケートは、授業の振り返りや気づきが明確となり今後の授業に反映できる。 ・行事への参加については、学生主体の計画を基本とし参加の意義を考えさせている。	5 4 ③ 2 1 十 ふ 不 ← つ → 十 分 う 分	・学生による授業評価は教員の授業力アップに繋がるため引き続き実施していく。	

2 施設・設備

項 目	どのような現状ですか	良好な点あるいは問題点	5段階の自己評価	今後の向上・改善策	学校関係者評価
1. 教室の数や広さ、付帯設備は適切ですか	・クラス数に合った専用の普通教室をもち、1学年定員40名に必要な机と椅子の数を配置できる広さである。 ・グループ討議等が出来る多目的室を有している。 ・鍵のかかるロッカールームを使用。 ・付帯設備に問題はない。 ・面談室は、保健室を使用。	・付帯設備に不具合が生じたときは即対応しており、問題はない。 ・築25年経過し校舎の老朽化が進む中、学校の管理部門と連携し、校舎全体の整備管理を行っている。 ・防災危機管理マニュアルを作成し不測の事態に対応できる体制をとっている。	5 4 ③ 2 1 十 ふ 不 ← つ → 十 分 う 分	・校舎、付帯設備に問題が生じた場合は、即対応し学習環境に配慮する。 ・防災委員会を設置し、危機管理マニュアルの見直しを行う中で校舎・付帯設備等は固定・転倒防止対策に向けた取り組みを行う。 ・科目留年の学生が目立つ中、不利益を被らない学習環境をつくる。	
2. 図書室を設け蔵書を適切に揃えていますか（有効に活用されていますか）	・阪奈中央リハビリ校と共有。 ・蔵書約1万冊、雑誌は約65タイトルの最新雑誌を毎月入荷。 ・図書司書が定期的に分野毎、領域別に分類し常に整理点検が出来ている。 ・卒業生の利用は、可能である。 ・図書の返却は、通常時の返却の他実習に合わせても処理されている。	・他校と共有しているためより幅の広い文献閲覧が可能。 ・1つの課題学習に対し、文献冊数に限界があるため貸し出しは先着順となる。 ・書籍・検索システムがあり利用している。 ・希望図書は、総て購入出来ている。	5 4 ③ 2 1 十 ふ 不 ← つ → 十 分 う 分	・図書室内に文献検索やリフレッシュの場として、又、自習室としての空間づくりの工夫をする。 ・DVDを個人的に観賞できる環境づくりを考える。	

	・基礎実習中は学生のニーズを取り入れ時間外の利用を可能にした。				
3. 実習・実験室の数や広さ、附帯設備は適切ですか	・実習室は、指定規則に準じており、適正である。 ・ベッドや沐浴槽等付帯設備は学生数に合わせており適切である。 ・教育内容に合った教材を計画的に揃えている。 ・開校時のベッドを使用しているためギャッジアップしづらい。	・冷暖房・給湯器は、新規に取り換えが行われ効率よく運用できている。 ・不具合が生じた場合は、本校の管理部門と連携をとり即、対応できている。 ・希望する実習教材は殆ど購入出来ている。 ・学校の歴史があるので古くなっているものもあるが、大切に扱うこと、手入れや他の物で代用する事等が学べる。	5 4 ③ 2 1 + ふ 不 ← つ → + 分 う 分	・年1回の点検整備と共に、授業終了後はその都度点検を行い、破損・汚損時は迅速に対応する。	
4. 最新機能を備えた視聴覚機器や情報機器は足りていますか（有効に活用していますか）	・情報機器はリハビリ校の情報科学室にあり、1人1台の割合でパソコンが使用できる。 ・プロジェクター等の視聴覚機器は2教室に揃えてあり、授業等有効に活用している。	・関連校と共有しながら活用できている。 ・阪奈中央リハビリ校の情報科学室は、離れすぎて、移動に時間がかかる。	5 4 ③ 2 1 + ふ 不 ← つ → + 分 う 分	・機器は丁寧に扱い、支障を来たした場合は迅速に対応する。	
5. ニーズに応じた学生寮を保有していますか（有効に活用されていますか）	・保有し管理責任者を置いている。 ・学校に近く安心安全な環境で快適な学生生活を送っている。	・今年度は10名の入寮者があった。経済面、プライバシーの遵守、学習環境にも恵まれている。	5 ④ 3 2 1 + ふ 不 ← つ → + 分 う 分	・学生募集の際、他府県の学生に有効に活用する。	

6. 体育館や運動場などを保有していますか (有効に活用されていますか)	・関連施設(別棟)の体育館を使用。 ・入学式・卒業式等の行事に使用。 ・サークル活動や地域住民にも開放している。	・学生の運動不足解消のため、体育館の放課後使用は可能。 (16:30~17:30要届出)。	5 ④ 3 2 1 + ふ 不 ← つ → + 分 う 分	・セキュリティの管理を徹底する。	
---	--	---	--	--	--

3 学生サービス

項 目	どのような現状ですか	良好な点あるいは問題点	5段階の自己評価	今後の向上・改善策	学校関係者評価
1. クラス担任制をとり修学に問題のある学生に対して適切な対応を行っていますか	・学生相談の窓口として担任制をとっており、きめ細かな対応が来ている。 ・担任は、担当教員と情報を共有し必要に応じて教務会議で問題解決にあたっている。	・教育の経験や、教員の許容量により対応に差はあるが、全教員でフォローし合い学生支援にあたっている。 ・保護者との連絡や来校時は、教務主任と担任で適切に対応している。	5 ⑤ 4 3 2 1 + ふ 不 ← つ → + 分 う 分	・面接技法は研修会等で日々研鑽する。必要に応じて助言・支援が必要。	
2. 学生に対してカウンセリング(心理相談)を行っていますか	・専門家のカウンセラーが来校して下さり、多くの学生の相談に乗って頂き早期に対応できた。 ・関連施設の医師による心理相談も可能。 ・実習開始に伴う精神的ダメージが多くみられ、保護者の支援を要した。	・心理相談は、学外において週2回、予約制で実施。プライバシーは遵守されている。 ・専任教員は、傾聴/受容/共感的な対応にあたっている。 ・学生の支援が必要な場合、保護者にTEL又は来校頂き密な状況報告と対応できた。	5 ④ 3 2 1 + ふ 不 ← つ → + 分 う 分	・相談しやすい窓口となるように、学生との信頼関係構築に努める。 ・専門家とコンタクトをとり、更なる支援を得る。 ・保護者との緻密な協力支援体制の構築。	

3. 教室以外に休憩スペースが適当に置かれていますか	・2Fにロビー有。飲食可能な休憩スペースとして活用している。 ・男女更衣室共、語り合いや休憩場所として活用。	・2Fロビーは一部の学生のみ利用となっているが、語り合いや休憩・交流の場になっている。又、更衣室も、休憩の場としてよく活用している。	5 4 ③ 2 1 + ふ 不 ← つ → + 分 う 分	・もう少し余裕のある休憩スペースづくりを考える。 ・学生更衣室や2階ロビーは空調が無いため、休憩スペースとしては、期間が限られる。
4. 食事場所や売店などのスペースが設けられていますか	・食事場所：教室・2Fロビー ・売店：無いが、学校が選定した弁当業者が注文販売、週2回のパン業者の販売を利用。	・教室での昼食は、和気あいあいの雰囲気でのコミュニケーションづくりの場でもある。	5 4 ③ 2 1 + ふ 不 ← つ → + 分 う 分	・換気を頻繁に行うように指導。 ・清掃の徹底。
5. 学校独自に奨学金や特待生制度を行っていますか	・関連医療施設に奨学金制度があり、就職も可能である。	・学校見学会や入学時に、関連医療施設及び公的機関の奨学金制度について説明を行っている。	5 4 ③ 2 1 + ふ 不 ← つ → + 分 う 分	・更に奨学金制度の説明を行っていく。
6. その他	・近鉄生駒駅、京阪寝屋川市駅経由のスクールバスが今年度より無料運行となり利用している。 ・同総会への参加を促している。 ・地域の清掃活動に参加できた。 ・卒業後も学生と繋がり	・運賃の無料化は、学生募集に好条件となる。 ・卒業生から相談を受ける等、より繋がりが深まった。	⑤ 4 3 2 1 + ふ 不 ← つ → + 分 う 分	・次年度は、運行時間帯・運賃等の見直しがある予定。 ・学生募集の際、積極的にアピールしていく。 ・同窓会への参加を意識付け卒業生相互の親睦と、母校の発展に貢献できるように働きかける。

	対等な関係で共に研修会に参加している。			・ボランティア活動を積極的に行い地域との連携を深める。	
--	---------------------	--	--	-----------------------------	--

4 教育面などでの特筆すべき取り組み(自由記入)

※学内においてこれまで記入したこと以外に、教育、施設・設備、学生サービス面での特筆すべき取り組みがあれば記入ください。 ・今年度より、近鉄生駒駅、JR 忍が丘駅、京阪寝屋川市駅より、スクールバスの運行が無料となり又、運行時間帯および、運行回数も見直され、より、学生の通学の利便性が高められた。 ・今年度、本校において「専門実践教育訓練給付制度厚生労働大臣指定講座」の認定を受け、次年度新入生より利用可能となった。	一看護師の資格をとるために、高校在学中どういう勉強に力を入れるといいと思われるか看護学校の立場から求められるものは何か？ A: 論理的思考が出来るような国語力・そして文章から読み取る読解力・さらに滴下計算が出来るような基礎計算力が必要かと思われる。 今後地域の中で活躍できるナースを育成するカリキュラムへ移行するので、ボランティア力も必要になると思われる。 —実際、高校の現場との連携・交流(モデル校での勉強等)があるか？ A: 本校は進学コース(准看護師が正看護師を目指す課程)なので、直接高校との交流はなく、唯一、高等学校衛生看護科が高校卒業後の入学になる。今はほとんど連携や交流はない。 交流があるのは、姉妹校である阪奈中央看護専門学校准看護科です。交流会を開いて本校の事を知っていただき、在学生との意見交換会等を企画・実行している。全員が進学には結びつかないのが現状である。 又、准看護師として働いて入学してくる年配の学生は動機付けも高く、自己管理も出来る方が多いが、衛生看護科出身の入学生は、高校時代、普通科としての勉強と准看護師になる勉強と併用しているため、同じ学生としてスタート地点に立った時のギャップに悩み退学するケースが多い。
---	---

	評価: 社会人からの学生/准看護学校／高等学校衛生看護科の学生と多様な学生がいる中で、その資質をより理解し、そこに課題解決の糸口を見つけられれば、学校の魅力に大いにプラスに繋がるのではないかと考えられる。 糸口を見出す方向性として、今抱えている悩み・弱点を逆に活かすことを考えてはどうか。学校が違う学生が多い中でその繋がりを大切にし、うまく活用出来るところに問題解決を見いだせるのではないかな。 例えば、ポリテクセンターという職業訓練校を紹介すれば、取りまとめをしてくれる人がいて、進みの遅い人をサポートしてくれる。良い方向に向けば学習も進むし、人格形成にも社会にもいい影響が出てくる。そこに学校の特徴が見いだせると思われる。 学力が違う、学校が違う、この「違うこと」によって、先生方の意識改革も出来ると思っている。そのためには、いろいろなことに挑戦していくスタイルを確立する必要がある。地域に働きかけて無償有償のボランティアに参加し、有償の場合はさらに寄付というボランティアにする等々。 そして、開かれた学校(地域を根ざすを目指す)にするためにはどうゆう取り組みにするか？を考える。たとえば、IT 教育を地域の方に依頼する。そのお礼方々何か催す等々。多くの地域の方が学校に来ることにより挨拶ができるなど生活面の躰ができたりする。地域の方とむすぶことによって、先生方の柔軟性も養っていけるのではないかと考えられる。 今後、地域へボランティアとして出ていくとのお話だが、地域との連携を深めていく地元教育も考えては如何か。 学校で、学園全体、グループ全体で市町という行政とも連携しながら、又地元の学校とか病院・施設とも密な関係を作っていく。そしたら、他府県から来る学生が地元に着定してくれる、そんな学生が増えると学校の付加価値が上がるのではないかな、学校の存在感を高められるのではないかな、それが学校の魅力になるのではないかなと考えられる。
--	---